

大阪府内地域連携プラットフォーム
2024（令和 6）年度 新入生対象 薬物に関する意識調査
（共同 IR 実施報告）

1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
3. 調査の結果	7
4. 本調査を踏まえた主な意見等と今後の方向性について	45

2024(令和 6)年 9 月

大阪府内地域連携プラットフォーム

1. 調査の目的

近年、スマートフォンの急速な普及に伴い、インターネットやソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を通じて大学生が大麻などの違法薬物に接しやすい状況が生じている。

大学コンソーシアム大阪では、各地で大学生の違法薬物所持や乱用による逮捕者が相次ぐ状況を重く受け止め、大学の使命として学生に健康で充実した大学生活を保障するとともに、安全で安心な社会の実現のために、複数大学が連携して社会的意義のある啓発活動に取り組むため、2020（令和2）年5月に開催した総会において会員大学の新生を対象とした薬物乱用防止に関するアンケート調査を実施することを決定し、今回4回目の調査となる。

大学生の薬物に対する意識の実態把握はもとより、調査を通じて新しく大学生活を始める新生に薬物乱用防止の啓発を一層促進することを目的に本調査を実施する。

2. 調査の概要

(1) 調査対象者

令和6年度に会員大学（大阪府内地域連携プラットフォーム形成大学）に入学した学生

(2) 調査実施方法

- ①各大学において、新生ガイダンス等で新生に周知用チラシを配布、回答を指示
 - ②学生が各自パソコン、スマートフォン等にて、大学コンソーシアム大阪のホームページのアンケートフォームにアクセスし回答
- なお、関西大学は大学独自に調査を実施し、その集計結果を加えて計上している。
(ただし、性別及びその他の記述項目は除く。)

(3) 調査実施期間

令和6年4月1日（月）～5月10日（金）

(4) 調査主体

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

(5) 調査の内容

調査の内容は、次の21問24項目である。今回調査から、問21の新設と問2および問15の選択肢を1つ追加している（次表で☆印を付したもの）。

性別の分析において、「その他」の回答者が少ないため、数値は掲載するが、コメントからは除外している。

1. あなたは、薬物乱用問題について関心がありますか。(1つ選択)	
1	非常に関心がある
2	ある程度関心がある
3	どちらともいえない
4	あまり関心がない
5	ほとんど関心がない

2. あなたは、以下の薬物の名前を知っていますか。(複数選択可)	
1	有機溶剤(シンナー、トルエンなど)
2	覚せい剤(シャブ、スピード、エスなど)
3	大麻(マリファナ、ハッパ、ハッシッシュなど)
4	コカイン(コーク、スノウ、クラックなど)
5	あへん類(ヘロインなど)
6	LSD(アシッド、フェニックス、ドラゴンなど)
7	MDMA(エクスタシーなど)
8	いわゆる危険ドラッグ(脱法ハーブなど)
9	☆大麻入り食品(大麻グミなど)
10	知っているものはない

【次の質問以降は質問2であげた薬物についてお聞きします。】	
3. あなたは、これらの薬物についてどのような印象を持っていますか。(複数選択可)	
1	かっこいい
2	気持ち良くなれる気がする
3	ダイエットに効果がある
4	眠気覚ましに効果がある
5	1回使うくらいであれば、心や体への害はない
6	心や体に害がある
7	犯罪に巻き込まれる
8	使ったり、持っていたりするの悪いことだ
9	1回でも使うと止められなくなる
10	人に渡したり、人からもらうことも悪いことだ
11	特にない
12	わからない

4. あなたは、これらの薬物を使ったり、持っていたりした場合、また、他人に譲渡したり、譲渡された場合、どうなると思いますか。(1つ選択)	
1	罰せられる
2	罰せられるものもある
3	1回くらいなら、罰せられることはない
4	罰せられることはない
5	わからない

5. あなたは、これらの薬物について学んだり聞いたりしたことがありましたか。（どちらかを選択）	
1	あった
2	なかった

6. あなたは、薬物を使った場合、以下のようになることがあるのを知っていましたか。（複数選択可）	
1	現実と幻想との区別がつかなくなり、意識が異様になることがある
2	わけもなく怯えたり（妄想気分）、意識がおかしくなり、奇妙な動作・行動をとることがある
3	自分の行動に干渉する声が聞こえる（幻聴）ことがある
4	何事にも関心が持てず、結果的に学校や職場を欠席しがちで、どんな仕事に就いても、長続きしなくなる
5	依存性があり、意思の力ではなかなかやめることができない
6	知らなかった

7. あなたは、これらの薬物について何から情報を得ましたか。（複数選択可）	
1	小学校の授業
2	中学校の授業
3	高校の授業
4	大学が配布しているリーフレット等
5	大学での啓発ビデオ
6	大学での講演会
7	友達、仲間、先輩、後輩
8	家族
9	ポスター、パンフレット
10	本、雑誌
11	新聞
12	テレビ
13	ラジオ
14	インターネット
15	SNS
16	その他

8. あなたは、これらの薬物を使うことの怖さ（有害性、危険性）をもっと知りたいですか。（1つ選択）	
1	知りたい
2	知りたいとは思わない
3	どちらでもない

9. あなたは、これらの薬物を使った場合の害について学ぶとしたらどこがよいと思いますか。（複数選択可）	
1	大学（講演会、ビデオ、リーフレット）
2	家庭
3	地域活動、自治体等の広報誌
4	図書館、公民館
5	保健所

9. あなたは、これらの薬物を使った場合の害について学ぶとしたらどこがよいと思いますか。（複数選択可）	
6	警察
7	厚生労働省麻薬取締部
8	病院
9	インターネット
10	講演会、座談会
11	特にない
12	その他

10. あなたは、これらの薬物を使う人が増えているのはどのような理由からだと思いますか。（複数選択可）	
1	薬物が簡単に手に入るようになっている
2	本や雑誌等に薬物を使ってみたいと思わせるような情報がのっている
3	SNSやインターネットなどに薬物を使ってみたいと思わせるような情報がのっている
4	社会のルールを守ろうとする意識が薄れている
5	薬物を使ってもすべての人が警察に見つかるわけではない
6	簡単にやせられるとか、1回使っただけなら害がないなど、薬物のこわさについての誤った情報が多い
7	薬物の害について学ぶことが少ない
8	友達、仲間、先輩、後輩にすすめられる
9	学校や家庭がおもしろくない
10	わからない
11	その他

11. あなたは、これらの薬物を使うことについてどのように考えていますか。（1つ選択）	
1	どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない
2	1回位なら心や体へ害がないので、使ってもかまわない
3	他人に迷惑をかけないのであれば、使うかどうかは個人の自由である
4	その他

12. あなたは、これらの薬物が使用されているところを直接見たことがありますか。（テレビ、映画、インターネット、報道等で見たものは除きます）（どちらかを選択）	
1	ない
2	ある

13. あなたは、これらの薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたりすることが、これまでにありましたか。（1つ選択）	
1	誘われたり、勧められたことはない
2	購入を勧められたことがある
3	使用を誘われたことがある
4	無理やり使わされたことがある
5	わからない

14. あなたは、これらの薬物を使用することを誰かに誘われたら、どのように行動しますか。（複数選択可）	
1	誘った相手が誰であろうと、断る
2	誘った相手によっては、断りきれないかもしれない
3	一回くらいであれば体に害がなさそうなので断らないかもしれない
4	好奇心や面白半分から断らないかもしれない
5	悩み事があったり、疲れていたりしたら断らないかもしれない
6	わからない
7	その他

15. (ア) あなたの周囲に、これらの薬物を所持したり、使用している（いた）人がいますか。（1つ選択）	
1	いない
2	いる（いた）
3	わからない

【質問 15 (ア) で「2 いる（いた）」を選択した人だけお答えください】	
15. (イ) どの薬物でしたか。（複数選択可）	
1	有機溶剤（シンナー、トルエンなど）
2	覚せい剤（シャブ、スピード、エスなど）
3	大麻（マリファナ、ハッパ、ハッシッシュなど）
4	コカイン（コーク、スノウ、クラックなど）
5	あへん類（ヘロインなど）
6	LSD（アシッド、フェニックス、ドラゴンなど）
7	MDMA（エクスタシーなど）
8	いわゆる危険ドラッグ（脱法ハーブなど）
9	☆大麻入り食品（大麻グミなど）
10	わからない

16. あなたは、もし友人がこれらの薬物を使用していることを知った場合、どうしますか。（1つ選択）	
1	使用をやめるよう説得する
2	他の人（先生や友人など）に伝える
3	警察に通報する
4	医療機関や保健所等に連絡する
5	個人の自由であるので放っておく
6	わからない
7	その他

17. あなたは、これらの薬物に関する相談窓口があることを知っていますか。（複数選択可）	
1	警察の相談窓口
2	行政機関の相談窓口（精神保健福祉センター等）
3	厚生労働省麻薬取締部の相談窓口
4	医療機関の相談窓口
5	民間の支援団体の相談窓口

17. あなたは、これらの薬物に関する相談窓口があることを知っていますか。（複数選択可）	
6	知らない
7	その他

18. あなたや、あなたのまわりの人がこれらの薬物に手を出さないように注意するために知りたいと思う情報は何か。（複数選択可）	
1	薬物乱用による健康被害情報
2	薬物乱用により引き起こされた事件・事故の事例情報
3	国や地方公共団体の薬物乱用対策情報
4	医療機関や民間支援団体の取り組み情報
5	特になし
6	その他

19. (ア) あなたは、これらの薬物を入手可能と考えますか。（1つ選択）	
1	不可能だ
2	かなり難しい
3	難しいが手に入る
4	手に入る

【19. (ア) で「3 難しいが手に入る」または「4 手に入る」を選択した人だけお答えください】

19. (イ) 入手可能と考えた理由は何ですか。（複数選択可）	
1	SNSやインターネットで探せば見つけることができるから
2	SNSやインターネットで販売されているのを見かけたことがあるから
3	友人・知人が入手方法を知っていると聞いたことがあるから
4	繁華街などの街中等で販売されていることを見聞きしたことがあるから
5	それ以外

【19. (イ) で「5 それ以外」を選択した人だけお答えください】

19. (ウ) それ以外に入手可能と考えた理由は何ですか。

20. あなたは、医薬品医療機器等法により、危険ドラッグと称される薬物や商品（脱法ハーブ、合法アロマリキッドなど）の多くが、使ったり、持っていたりすると罰則の対象となる薬物になっていることを知っていますか。（どちらかを選択）	
1	知っている
2	知らなかった

21. あなたは、「市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）」が社会問題になっていることを知っていますか。（1つ選択） 「市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）」とは、市販薬（かぜ薬、解熱剤・鎮痛剤・睡眠薬など）を定められた用法・用量以上に服用する（過剰摂取する）ことで、薬物への依存が高まるだけでなく、内蔵機能障害や最悪の場合は心肺停止で死亡するケースもある、薬物乱用の一種です。	
1	知っている
2	知らなかった

3. 調査の結果

(1) 回答者数

本調査には、会員大学のうち 29 大学の学生、計 13,888 名から回答があった。大学別の回答者は下表のとおりである。

図表 1 会員大学全体の回答者数と所属大学別回答者数

	回答者数	割合 (%)		回答者数	割合 (%)
会員大学全体	13,888	100.00			
回答者所属大学	回答者数	割合 (%)	回答者所属大学	回答者数	割合 (%)
大阪大学	52	0.37	大阪体育大学	14	0.10
大阪教育大学	14	0.10	大阪電気通信大学	352	2.53
大阪公立大学	96	0.69	大阪人間科学大学	0	0.00
藍野大学	13	0.09	大阪保健医療大学	102	0.73
追手門学院大学	189	1.36	大手前大学	171	1.23
大阪青山大学	34	0.24	関西大学	6,535	47.06
大阪医科薬科大学	300	2.16	関西福祉科学大学	77	0.55
大阪大谷大学	51	0.37	近畿大学	953	6.86
大阪学院大学	0	0.00	四條畷学園大学	0	0.00
大阪観光大学	39	0.28	四天王寺大学	331	2.38
大阪経済大学	1,008	7.26	摂南大学	1,896	13.65
大阪経済法科大学	0	0.00	千里金蘭大学	0	0.00
大阪工業大学	163	1.17	相愛大学	7	0.05
大阪国際大学	0	0.00	宝塚大学	86	0.62
大阪産業大学	0	0.00	帝塚山学院大学	0	0.00
大阪樟蔭女子大学	364	2.62	梅花女子大学	0	0.00
大阪商業大学	7	0.05	羽衣国際大学	234	1.68
大阪女学院大学	138	0.99	阪南大学	0	0.00
大阪信愛学院大学	19	0.14	東大阪大学	0	0.00
大阪成蹊大学	529	3.81	桃山学院大学	103	0.74
大阪総合保育大学	0	0.00	森ノ宮医療大学	0	0.00
			無回答	11	0.08

※性別回答数内訳：男性 3,674 名、女性 3,370 名、その他 37 名、回答しない 272 名
計 7,353 名（関西大学調査分は除く）

※各選択肢の割合（%）は、小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある（以下の図表も同様）。

(2) 薬物乱用問題への関心状況

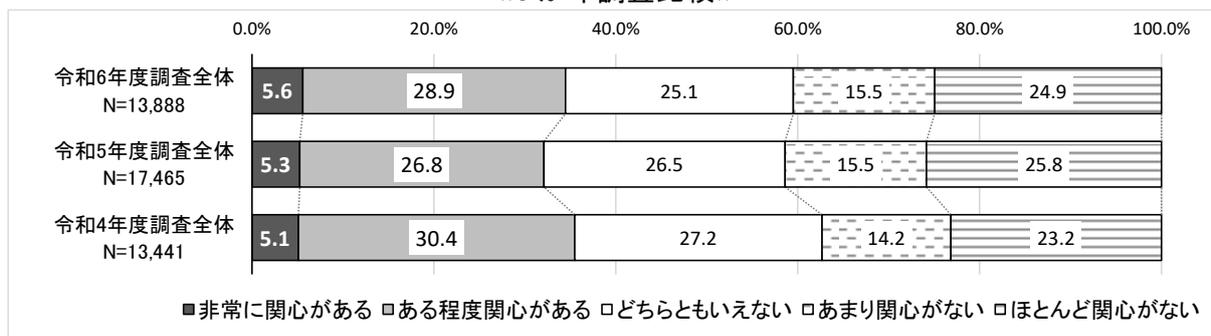
問1 あなたは、薬物乱用問題について関心がありますか。(1つ選択)

薬物乱用問題への関心の状況については、「ある程度関心がある」が28.9%、「どちらともいえない」が25.1%、「ほとんど関心がない」が24.9%となっている。「非常に関心がある」は5.6%と最も少ない。「関心がある(「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」の合計)」が34.5%である一方、「関心がない(「あまり関心がない」と「ほとんど関心がない」の合計)」が40.4%となっている。

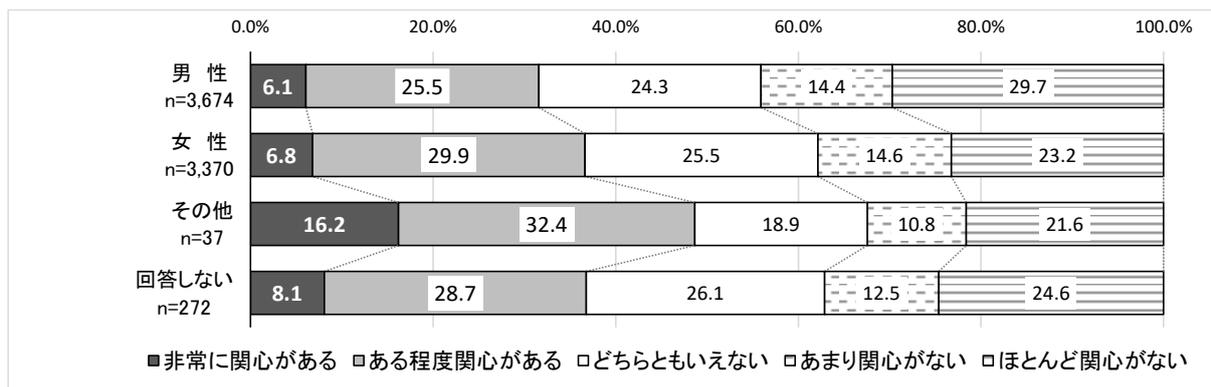
過去2年の調査と比較すると、「関心がある」が令和5年度調査よりやや増えており、「どちらともいえない」がやや減っている。

性別にみると、「関心がある」の割合は、「男性」が他に比べて少なく、「女性」と「回答しない」は同程度の割合である。

図表2 薬物乱用問題への関心状況
 <<3か年調査比較>>



<<性別比較>>



(設問順)

	令和6年度調査全体		大学コンソーシアム大阪調査(N=7,353)								令和5年度調査全体		令和4年度調査全体	
	n	%	男性		女性		その他		回答しない		n	%	n	%
回答者数	13,888	100.0	3,674	100.0	3,370	100.0	37	100.0	272	100.0	17,465	100.0	13,441	100.0
非常に関心がある	777	5.6	223	6.1	229	6.8	6	16.2	22	8.1	919	5.3	686	5.1
ある程度関心がある	4,009	28.9	937	25.5	1,006	29.9	12	32.4	78	28.7	4,689	26.8	4,084	30.4
どちらともいえない	3,481	25.1	894	24.3	859	25.5	7	18.9	71	26.1	4,631	26.5	3,656	27.2
あまり関心がない	2,157	15.5	529	14.4	493	14.6	4	10.8	34	12.5	2,713	15.5	1,903	14.2
ほとんど関心がない	3,464	24.9	1,091	29.7	783	23.2	8	21.6	67	24.6	4,513	25.8	3,112	23.2

(3) 薬物名の認知状況

問2 あなたは、以下の薬物の名前を知っていますか。(複数選択可)

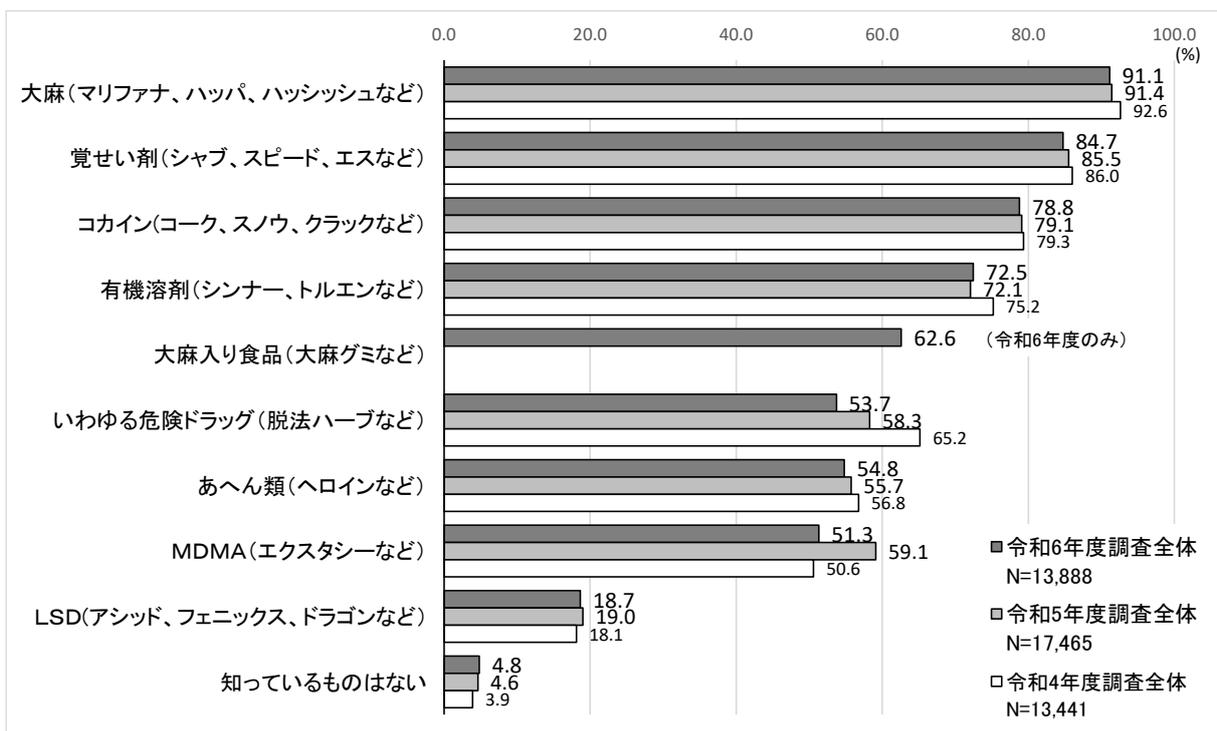
9種類の薬物を提示して、知っている名前をたずねたところ、「大麻(マリファナ、ハッパ、ハッシッシュなど)」が91.1%で最も多く、「覚せい剤(シャブ、スピード、エスなど)」が84.7%、「コカイン(コーク、スノウ、クラックなど)」が78.8%となっている。

今年度調査で新たに選択肢に加えた「大麻入り食品(大麻グミなど)」の認知度は、62.6%である。「LSD(アシッド、フェニックス、ドラゴンなど)」以外の8種の薬物については、認知度が5割以上と高い。なお、「知っているものはない」は4.8%と少ない。

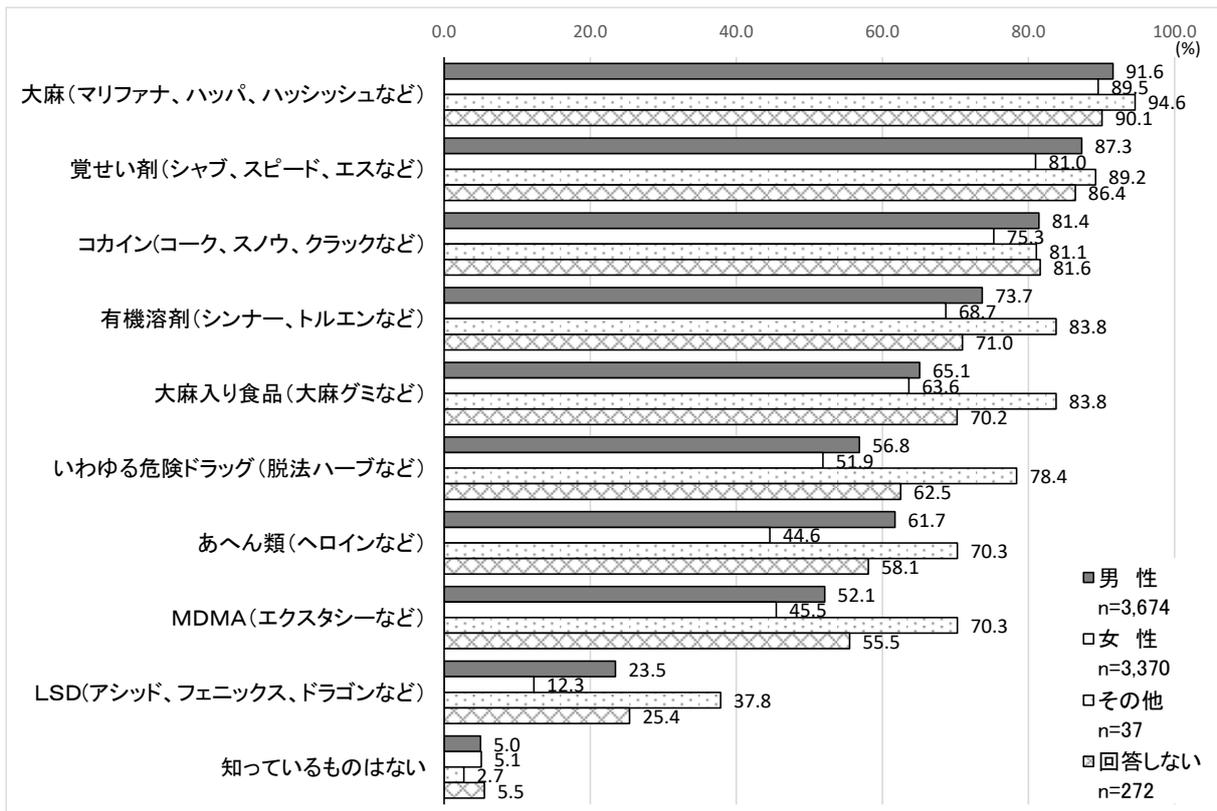
過去2年の調査と比較すると、「いわゆる危険ドラッグ(脱法ハーブなど)」の割合は年々減っている。「MDMA(エクスタシーなど)」の認知割合は、令和5年度が最も多く、今年度は令和4年度と同程度となっている。

性別にみると、認知している薬物の傾向に差はないが、「女性」の認知度が他に比べて低い。

図表3 知っている薬物の名前
 <<3か年調査比較>>



《性別比較》



(設問順)

	令和6年度調査		大学コンソーシアム大阪調査(N=7,353)								令和5年度調査		令和4年度調査	
	全体		男性		女性		その他		回答しない		全体		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
回答者数	13,888		3,674		3,370		37		272		17,465		13,441	
有機溶剤(シンナー、トルエンなど)	10,062	72.5	2,707	73.7	2,314	68.7	31	83.8	193	71.0	12,586	72.1	10,107	75.2
覚せい剤(シャブ、スピード、エスなど)	11,768	84.7	3,207	87.3	2,729	81.0	33	89.2	235	86.4	14,937	85.5	11,562	86.0
大麻(マリファナ、ハッパ、ハッシッシュなど)	12,657	91.1	3,364	91.6	3,017	89.5	35	94.6	245	90.1	15,967	91.4	12,447	92.6
コカイン(コーク、スノウ、クラックなど)	10,942	78.8	2,991	81.4	2,536	75.3	30	81.1	222	81.6	13,812	79.1	10,663	79.3
あへん類(ヘロインなど)	7,610	54.8	2,268	61.7	1,503	44.6	26	70.3	158	58.1	9,734	55.7	7,628	56.8
LSD(アシッド、フェニックス、ドラゴンなど)	2,592	18.7	862	23.5	414	12.3	14	37.8	69	25.4	3,322	19.0	2,435	18.1
MDMA(エクスタシーなど)	7,128	51.3	1,914	52.1	1,532	45.5	26	70.3	151	55.5	10,324	59.1	6,799	50.6
いわゆる危険ドラッグ(脱法ハーブなど)	7,462	53.7	2,088	56.8	1,748	51.9	29	78.4	170	62.5	10,177	58.3	8,759	65.2
大麻入り食品(大麻グミなど)	8,693	62.6	2,392	65.1	2,144	63.6	31	83.8	191	70.2	-	-	-	-
知っているものはない	672	4.8	183	5.0	171	5.1	1	2.7	15	5.5	811	4.6	526	3.9
累計	79,586		21,976		18,108		256		1,649		91,670		70,926	

(4) 薬物の印象

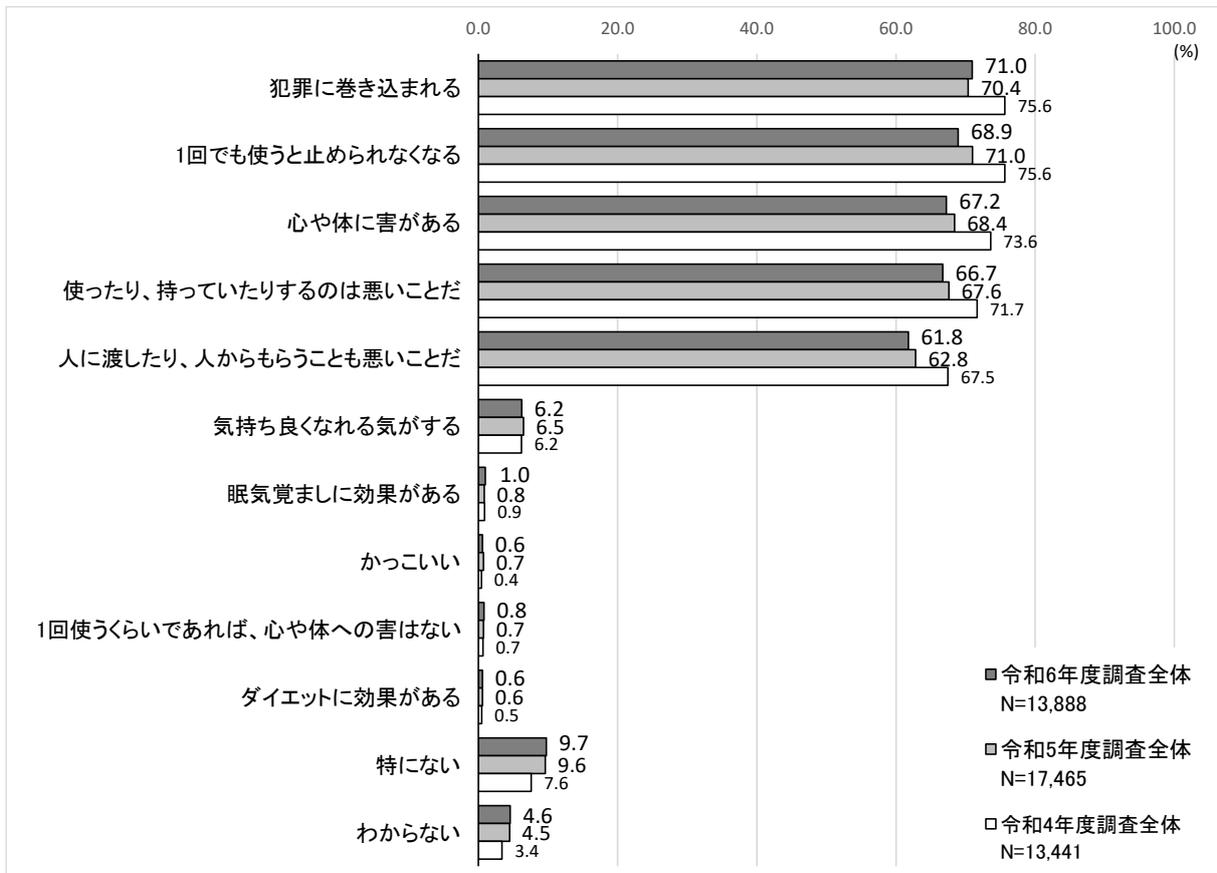
問3 あなたは、質問2であげた薬物についてどのような印象を持っていますか。
(複数選択可)

質問2で提示した薬物の印象について、71.0%が「犯罪に巻き込まれる」との印象をもっており、6割以上が「1回でも使うと止められなくなる」(68.9%)、「心や体に害がある」(67.2%)、「使ったり、持ったりするのは悪いことだ」(66.7%)、「人に渡したり、人からもらうことも悪いことだ」(61.8%)との印象を持っている。なお、過去2年の調査と比較すると、これらの割合がやや減っている。

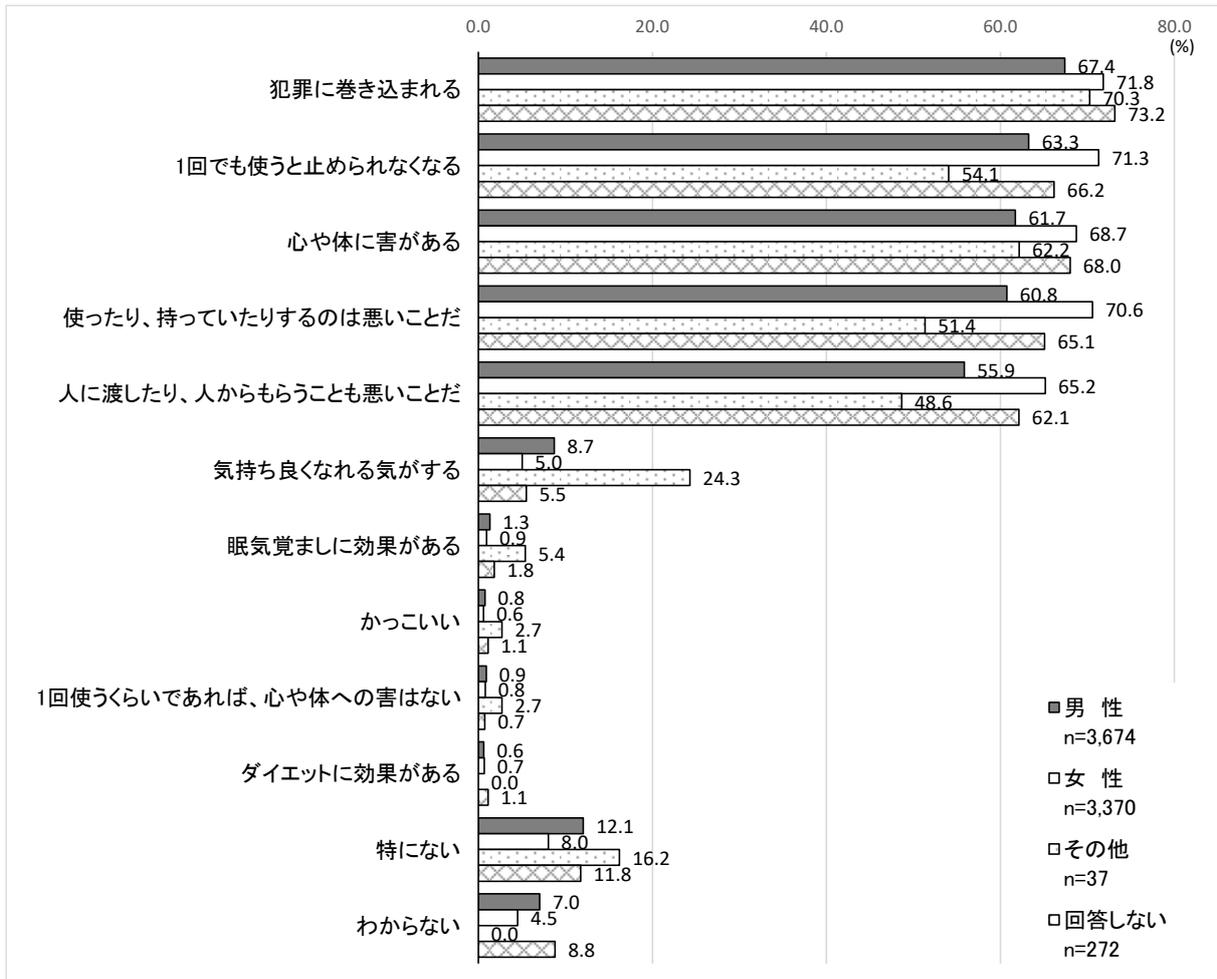
「気持ち良くなれる気がする」、「眠気覚ましに効果がある」、「1回使うくらいであれば、心や体への害はない」、「カッコいい」、「ダイエットに効果がある」といったプラスの印象を選択した割合は少ないものの、過去2年の調査と同様に、一定数が選択している。

性別にみると、「女性」は他に比べて、「1回でも使うと止められなくなる」などマイナスの印象の割合が多い。

図表4 薬物の印象
《3か年調査比較》



《性別比較》



(設問順)

	令和6年度調査 全体		大学コンソーシアム大阪調査 (N=7,353)								令和5年度調査 全体		令和4年度調査 全体	
	n	%	男性		女性		その他		回答しない		n	%	n	%
回答者数	13,888		3,674		3,370		37		272		17,465		13,441	
カッコいい	81	0.6	28	0.8	20	0.6	1	2.7	3	1.1	129	0.7	57	0.4
気持ち良くなれる気がする	862	6.2	320	8.7	170	5.0	9	24.3	15	5.5	1,132	6.5	830	6.2
ダイエットに効果がある	80	0.6	23	0.6	23	0.7	0	0.0	3	1.1	103	0.6	66	0.5
眠気覚ましに効果がある	138	1.0	49	1.3	32	0.9	2	5.4	5	1.8	147	0.8	118	0.9
1回使うくらいであれば、心や体への害はない	114	0.8	33	0.9	27	0.8	1	2.7	2	0.7	130	0.7	91	0.7
心や体に害がある	9,339	67.2	2,268	61.7	2,316	68.7	23	62.2	185	68.0	11,948	68.4	9,892	73.6
犯罪に巻き込まれる	9,857	71.0	2,476	67.4	2,421	71.8	26	70.3	199	73.2	12,293	70.4	10,166	75.6
使ったり、持っていたりするのはいが悪いことだ	9,266	66.7	2,232	60.8	2,379	70.6	19	51.4	177	65.1	11,806	67.6	9,632	71.7
1回でも使うと止められなくなる	9,573	68.9	2,324	63.3	2,403	71.3	20	54.1	180	66.2	12,401	71.0	10,164	75.6
人に渡したり、人からもらうことも悪いことだ	8,583	61.8	2,052	55.9	2,196	65.2	18	48.6	169	62.1	10,971	62.8	9,068	67.5
特にない	1,354	9.7	443	12.1	271	8.0	6	16.2	32	11.8	1,679	9.6	1,021	7.6
わからない	633	4.6	259	7.0	152	4.5	0	0.0	24	8.8	782	4.5	455	3.4
累計	49,880		12,507		12,410		125		994		63,521		51,560	

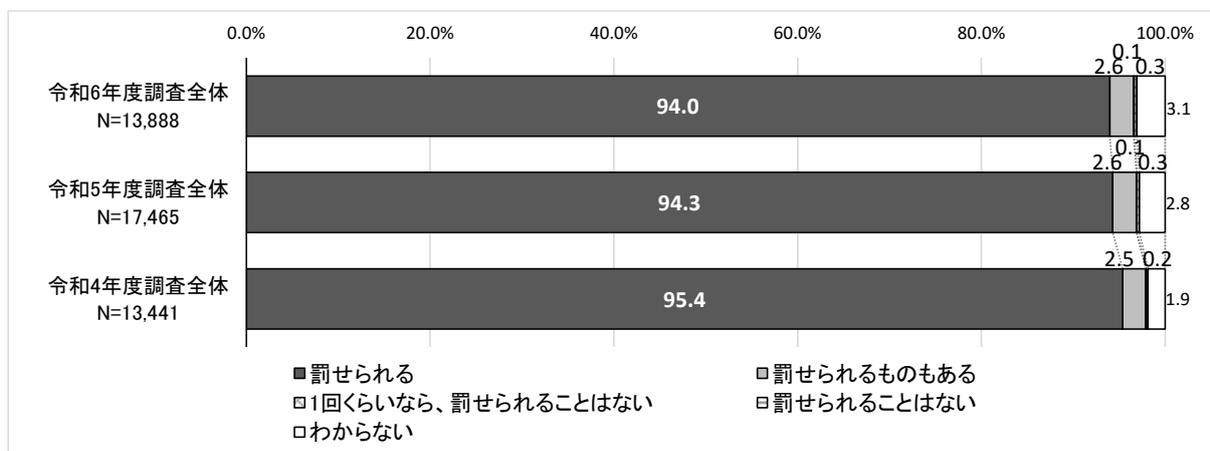
(5) 薬物の使用・所持・譲渡への処罰に関する認識

問4 あなたは、これらの薬物を使ったり、持っていたりした場合、また他人に譲渡したり、譲渡された場合、どうなるとお考えですか。(1つ選択)

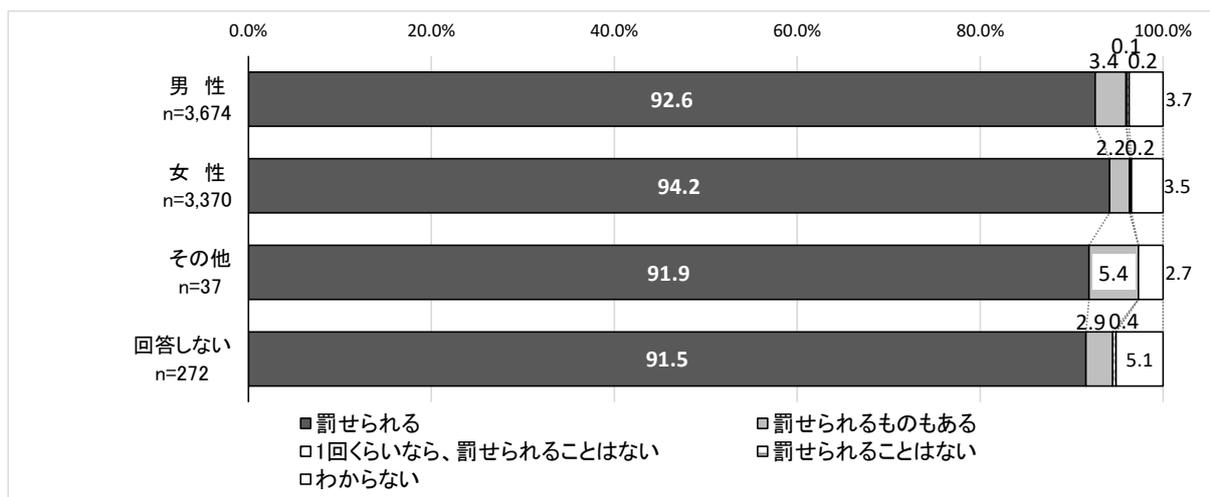
質問2で提示した薬物を使用したり、所持していたり、他人に譲渡したり、譲渡された場合どうなるかについては、94.0%が「罰せられる」としており、「罰せられるものもある」が2.6%である。「わからない」は3.1%であり、「罰せられることはない(「1回くらいなら」を含む)」とした回答もある。

過去2年の調査と同様の結果となっている。また、性別による差はない。

図表5 薬物使用等への処罰に関する認識
 <<3か年調査比較>>



<<性別比較>>



	令和6年度調査 全体		大学コンソーシアム大阪調査(N=7,353)								令和5年度調査 全体		令和4年度調査 全体	
	n	%	男性		女性		その他		回答しない		n	%	n	%
			n	%	n	%	n	%	n	%				
回答者数	13,888	100.0	3,674	100.0	3,370	100.0	37	100.0	272	100.0	17,465	100.0	13,441	100.0
罰せられる	13,052	94.0	3,401	92.6	3,173	94.2	34	91.9	249	91.5	16,467	94.3	12,822	95.4
罰せられるものもある	357	2.6	124	3.4	73	2.2	2	5.4	8	2.9	450	2.6	337	2.5
1回くらいなら、罰せられることはない	12	0.1	3	0.1	1	0.0	0	0.0	1	0.4	15	0.1	3	0.0
罰せられることはない	38	0.3	9	0.2	6	0.2	0	0.0	0	0.0	44	0.3	27	0.2
わからない	429	3.1	137	3.7	117	3.5	1	2.7	14	5.1	489	2.8	252	1.9

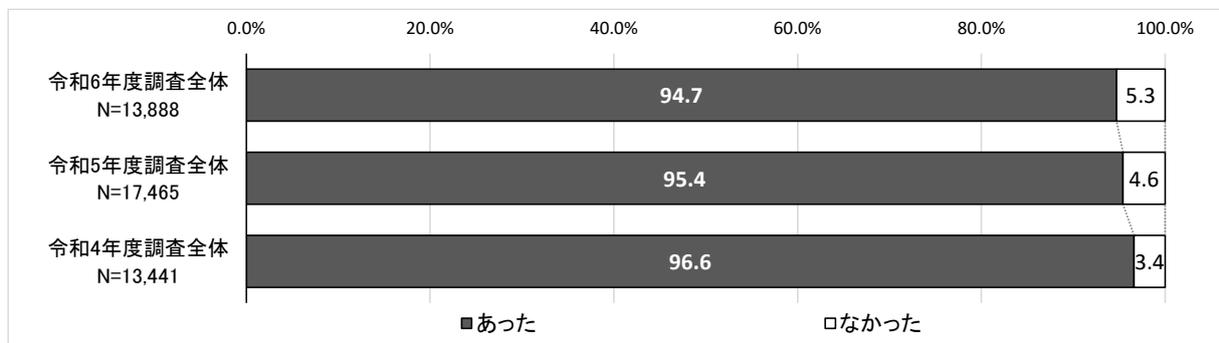
(6) 薬物についての学習経験の有無

問5 あなたは、これらの薬物について学んだり聞いたりしたことがありましたか。
(どちらかを選択)

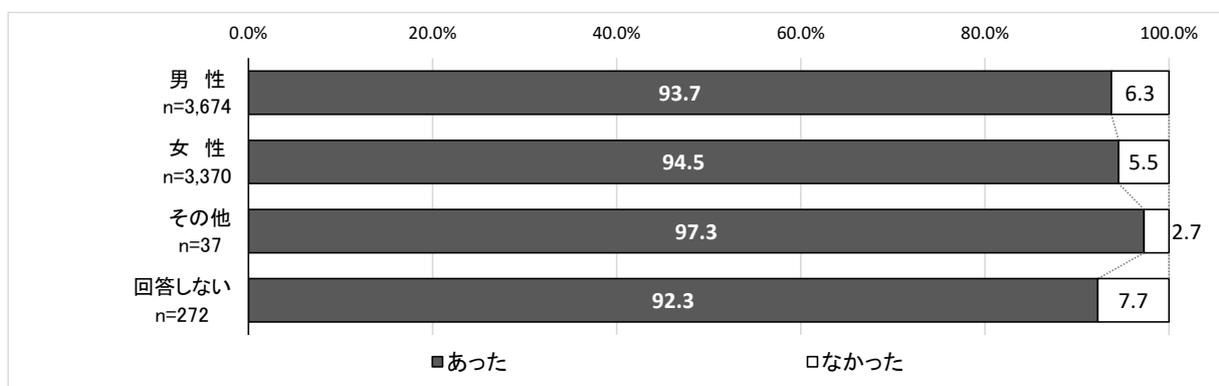
質問2で提示した薬物についてこれまでに学んだり聞いたりしたことがあるかについては、94.7%が「あった」としている。

過去2年の調査と同様の結果となっている。性別による差はない。

図表6 薬物についての学習経験の有無
《3か年調査比較》



《性別比較》



	令和6年度調査 全体		大学コンソーシアム大阪調査 (N=7,353)								令和5年度調査 全体		令和4年度調査 全体	
			男性		女性		その他		回答しない					
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
回答者数	13,888	100.0	3,674	100.0	3,370	100.0	37	100.0	272	100.0	17,465	100.0	13,441	100.0
あった	13,155	94.7	3,444	93.7	3,186	94.5	36	97.3	251	92.3	16,665	95.4	12,988	96.6
なかった	733	5.3	230	6.3	184	5.5	1	2.7	21	7.7	800	4.6	453	3.4

(7) 薬物使用時の症状に関する認知状況

問6 あなたは、薬物を使った場合、以下のようになることがあるのを知っていましたか。(複数選択可)

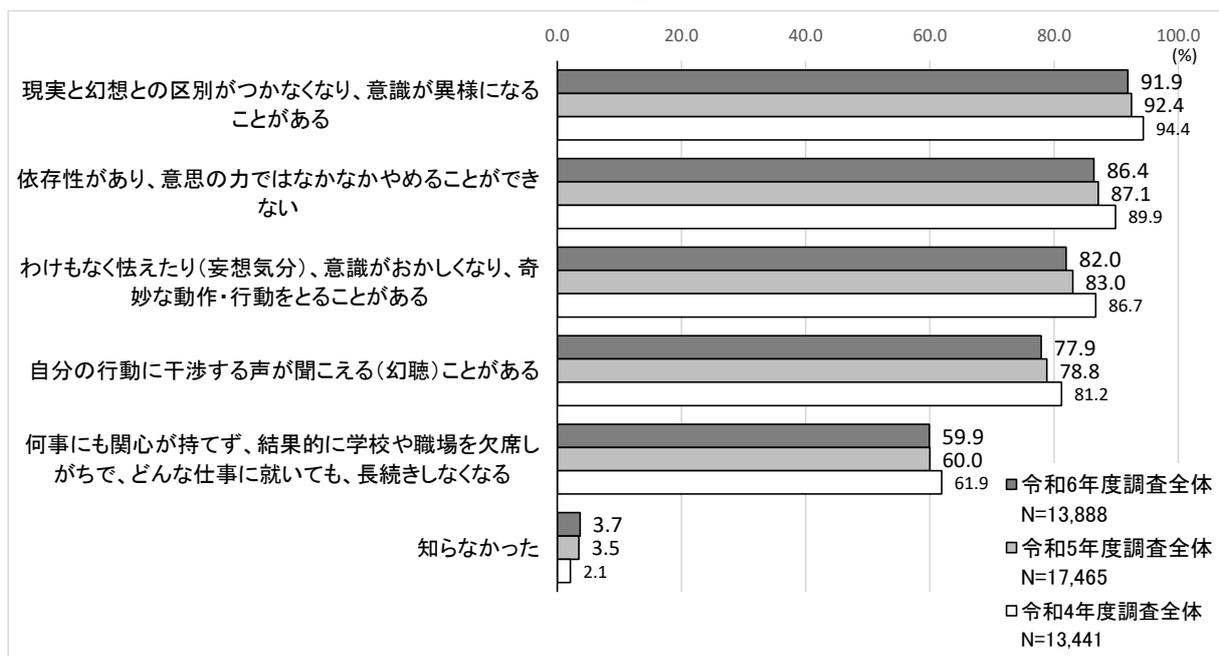
質問2で提示した薬物の使用時の症状を5つ提示し、このような症状になることの認知状況については、ほとんどの回答者が提示したいずれかの症状を選択し、「知らなかった」は3.7%である。知っている症状としては、91.9%が「現実と幻想との区別がつかなくなり、意識が異様になることがある」とし、「依存症があったり、意思の力ではなかなかやめることができない」(86.4%)「わけもなく怯えたり(妄想気分)、意識がおかしくなり、奇妙な動作・行動をとることがある」(82.0%)を選択している。「自分の行動に干渉する声が聞こえる(幻聴)ことがある」(77.9%)、「何事にも関心が持てず、結果的に学校や職場を欠席しがちで、どんな仕事に就いても、長続きしなくなる」(59.9%)の認知度も高い。

過去2年の調査と比較すると、同様の傾向となっているが、全選択肢とも認知の割合が微減している。

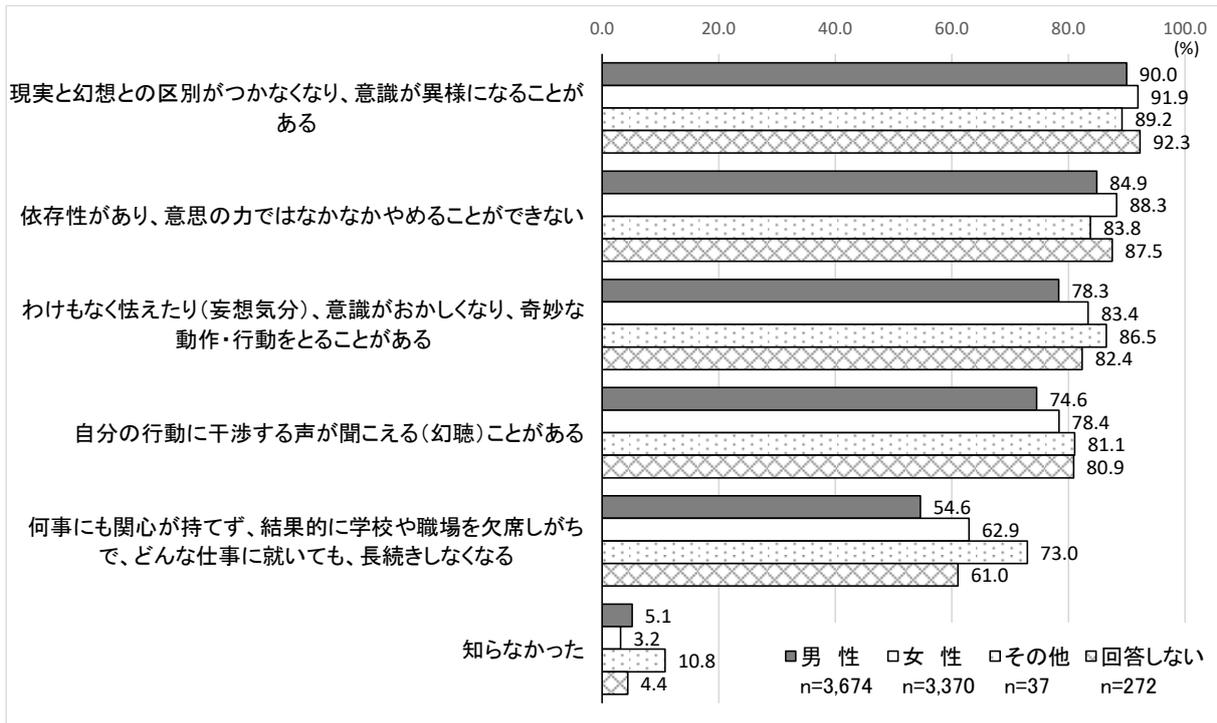
性別にみると、使用時の症状の5項目いずれも「男性」は他と比べて、認知度がやや低い。

図表7 薬物使用時の症状に関する認知状況

《3か年調査比較》



《性別比較》



(設問順)

	令和6年度調査		大学コンソーシアム大阪調査(N=7,353)								令和5年度調査		令和4年度調査	
	全体		男性		女性		その他		回答しない		全体		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
回答者数	13,888		3,674		3,370		37		272		17,465		13,441	
現実と幻想との区別がつかなくなり、意識が異様になることがある	12,760	91.9	3,306	90.0	3,098	91.9	33	89.2	251	92.3	16,145	92.4	12,683	94.4
わけもなく怯えたり(妄想気分)、意識がおかしくなり、奇妙な動作・行動をとることがある	11,382	82.0	2,878	78.3	2,810	83.4	32	86.5	224	82.4	14,499	83.0	11,653	86.7
自分の行動に干渉する声が聞こえる(幻聴)ことがある	10,823	77.9	2,739	74.6	2,641	78.4	30	81.1	220	80.9	13,771	78.8	10,915	81.2
何事にも関心が持てず、結果的に学校や職場を欠席しがちで、どんな仕事に就いても、長続きしなくなる	8,321	59.9	2,006	54.6	2,121	62.9	27	73.0	166	61.0	10,477	60.0	8,319	61.9
依存性があり、意思の力ではなかなかやめることができない	12,002	86.4	3,118	84.9	2,975	88.3	31	83.8	238	87.5	15,215	87.1	12,083	89.9
知らなかった	513	3.7	189	5.1	107	3.2	4	10.8	12	4.4	608	3.5	285	2.1
累計	55,801		14,236		13,752		157		1,111		70,715		55,938	

(8) 薬物についての情報源

問7 あなたは、これらの薬物について何から情報を得ましたか。(複数選択可)

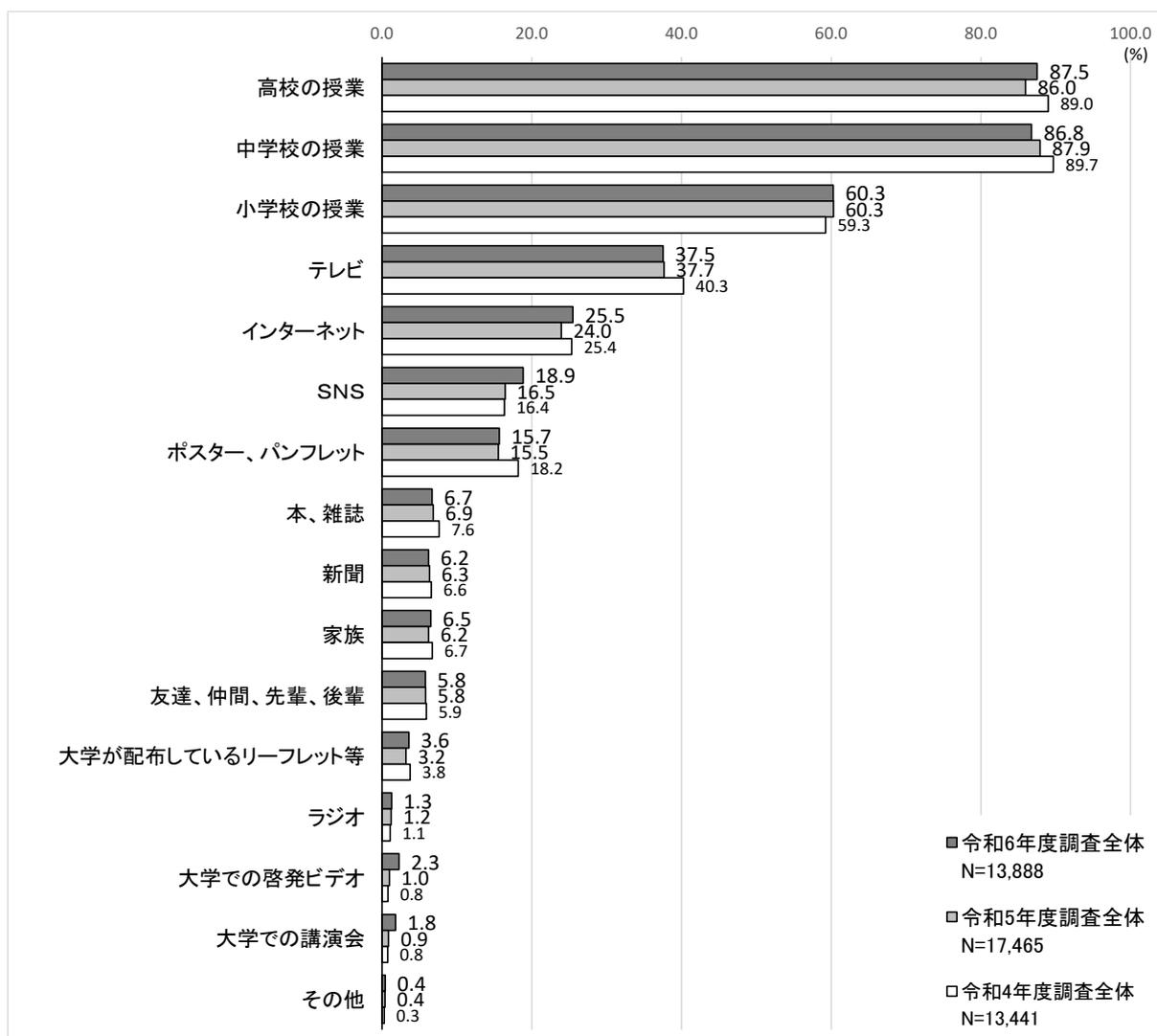
質問2で提示した薬物についての情報源は、「高校の授業」(87.5%)と「中学校の授業」(86.8%)が9割近くとなっている。「小学校の授業」も60.3%となっており、大学に進学する前に学校の授業で薬物についての何らかの情報を入手していることがうかがえる。

過去2年の調査と比較すると、いずれの選択肢も同様の割合となっている。

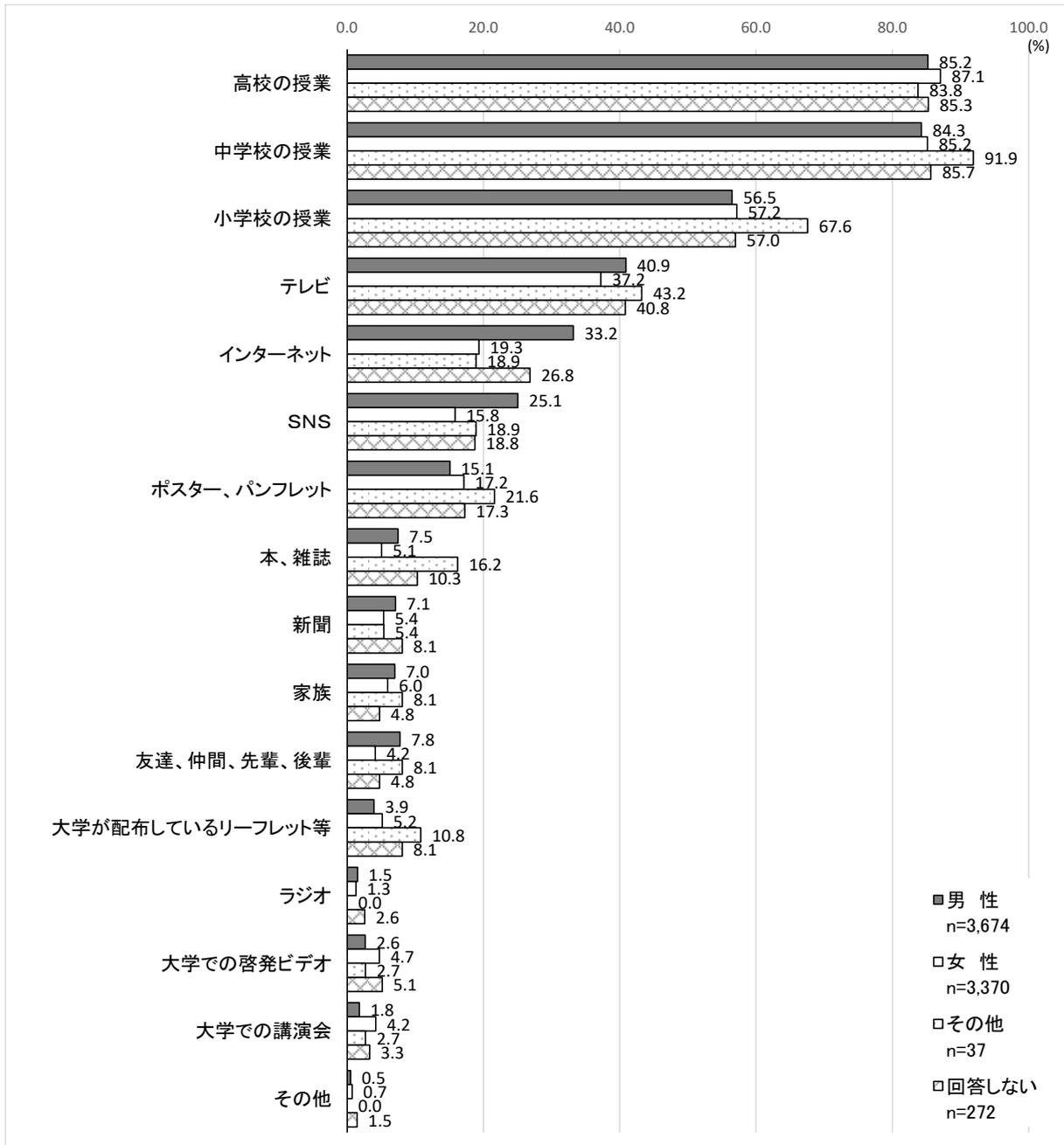
性別にみると、「女性」は他に比べて、「インターネット」、「SNS」を情報源としている割合が少ない。

「その他」として記載されている内容を見ると、「映画・テレビ」、「漫画・アニメ」、「ゲーム」や「職場・バイト先」などを通じて情報を得たとしている。

図表8 薬物の情報源
 <<3か年調査比較>>



《性別比較》



(設問順)

	令和6年度調査 全体		大学コンソーシアム大阪調査(N=7,353)								令和5年度調査 全体		令和4年度調査 全体	
			男性		女性		その他		回答しない					
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
回答者数	13,888		3,674		3,370		37		272		17,465		13,441	
小学校の授業	8,371	60.3	2,076	56.5	1,927	57.2	25	67.6	155	57.0	10,534	60.3	7,966	59.3
中学校の授業	12,050	86.8	3,096	84.3	2,870	85.2	34	91.9	233	85.7	15,352	87.9	12,056	89.7
高校の授業	12,155	87.5	3,131	85.2	2,934	87.1	31	83.8	232	85.3	15,014	86.0	11,962	89.0
大学が配布しているリーフレット等	498	3.6	145	3.9	174	5.2	4	10.8	22	8.1	561	3.2	506	3.8
大学での啓発ビデオ	315	2.3	97	2.6	160	4.7	1	2.7	14	5.1	171	1.0	106	0.8
大学での講演会	253	1.8	66	1.8	142	4.2	1	2.7	9	3.3	153	0.9	102	0.8
友達、仲間、先輩、後輩	804	5.8	285	7.8	140	4.2	3	8.1	13	4.8	1,020	5.8	797	5.9
家族	906	6.5	257	7.0	201	6.0	3	8.1	13	4.8	1,087	6.2	903	6.7
ポスター、パンフレット	2,175	15.7	554	15.1	578	17.2	8	21.6	47	17.3	2,715	15.5	2,446	18.2
本、雑誌	927	6.7	275	7.5	171	5.1	6	16.2	28	10.3	1,199	6.9	1,028	7.6
新聞	865	6.2	261	7.1	181	5.4	2	5.4	22	8.1	1,108	6.3	887	6.6
テレビ	5,213	37.5	1,503	40.9	1,255	37.2	16	43.2	111	40.8	6,580	37.7	5,415	40.3
ラジオ	179	1.3	56	1.5	44	1.3	0	0.0	7	2.6	216	1.2	146	1.1
インターネット	3,540	25.5	1,220	33.2	652	19.3	7	18.9	73	26.8	4,184	24.0	3,408	25.4
SNS	2,618	18.9	921	25.1	534	15.8	7	18.9	51	18.8	2,873	16.5	2,198	16.4
その他	61	0.4	19	0.5	25	0.7	0	0.0	4	1.5	69	0.4	40	0.3
累計	50,930		13,962		11,988		148		1,034		62,836		49,966	

図表9 「その他」の記載主旨

記載の主旨	件数	記載の主旨	件数
映画・テレビ	4	薬物乱用防止教室	1
ゲーム	3	音楽	1
漫画・アニメ	3	YouTube	1
職場・バイト先	3	精神科	1
海外留学	2	警察官のいところ	1
小・中・高校	2	実際に見た	1
大学の課題	1	記載なし	24

(9) 薬物の怖さについての更なる学習について

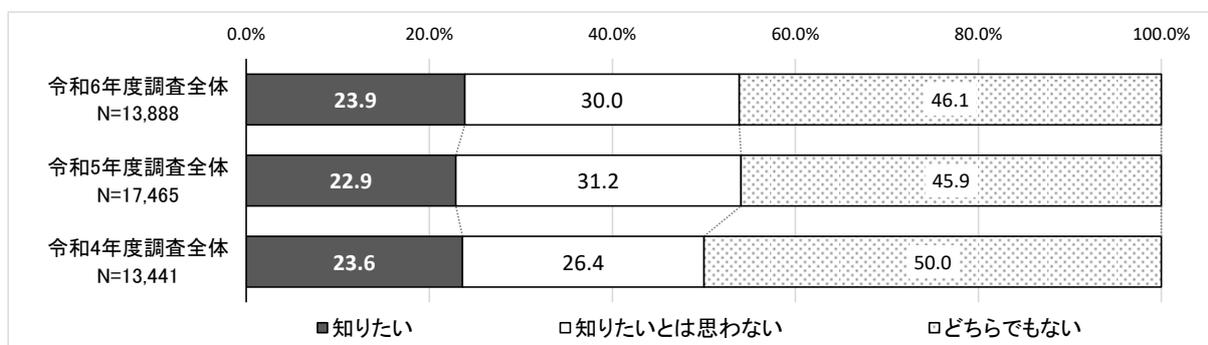
問8 あなたは、これらの薬物を使うことの怖さ（有害性、危険性）をもっと知りたいですか。（1つ選択）

質問2で提示した薬物を使うことの怖さ（有害性、危険性）についてもっと知りたいかについては、「どちらでもない」が46.1%と最も多く、「知りたいとは思わない」が30.0%、「知りたい」が23.9%となっている。

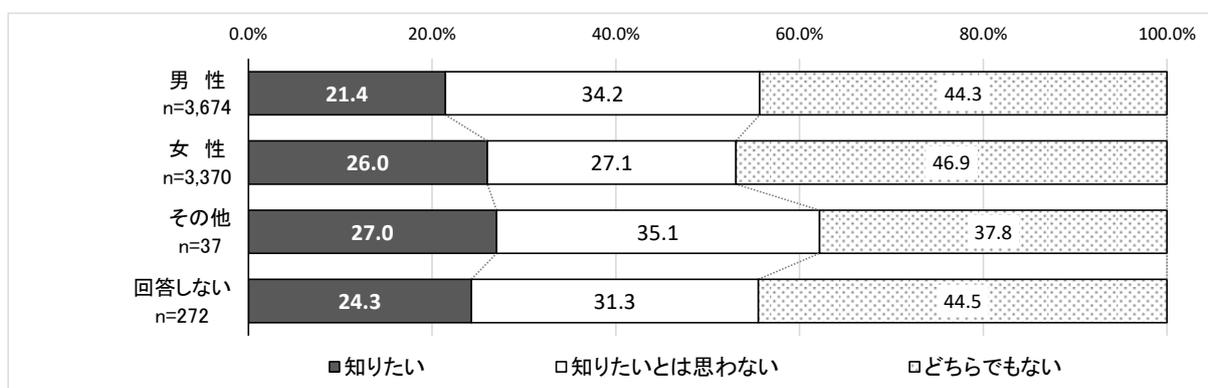
過去2年の調査と同様の結果となっている。

性別にみると、「男性」は「女性」に比べて「知りたい」の割合がやや少ない。

図表10 薬物の怖さについての更なる学習の必要性
 ≪3か年調査比較≫



≪性別比較≫



	令和6年度調査全体		大学コンソーシアム大阪調査 (N=7,353)								令和5年度調査全体		令和4年度調査全体	
	n	%	男性		女性		その他		回答しない		n	%	n	%
			n	%	n	%	n	%	n	%				
回答者数	13,888	100.0	3,674	100.0	3,370	100.0	37	100.0	272	100.0	17,465	100.0	13,441	100.0
知りたい	3,318	23.9	788	21.4	876	26.0	10	27.0	66	24.3	3,998	22.9	3,176	23.6
知りたいとは思わない	4,164	30.0	1,257	34.2	913	27.1	13	35.1	85	31.3	5,443	31.2	3,548	26.4
どちらでもない	6,406	46.1	1,629	44.3	1,581	46.9	14	37.8	121	44.5	8,024	45.9	6,717	50.0

(10) 薬物の害を学ぶ場

問9 あなたは、これらの薬物を使った場合の害について学ぶとしたらどこがよいと思いますか。(複数選択可)

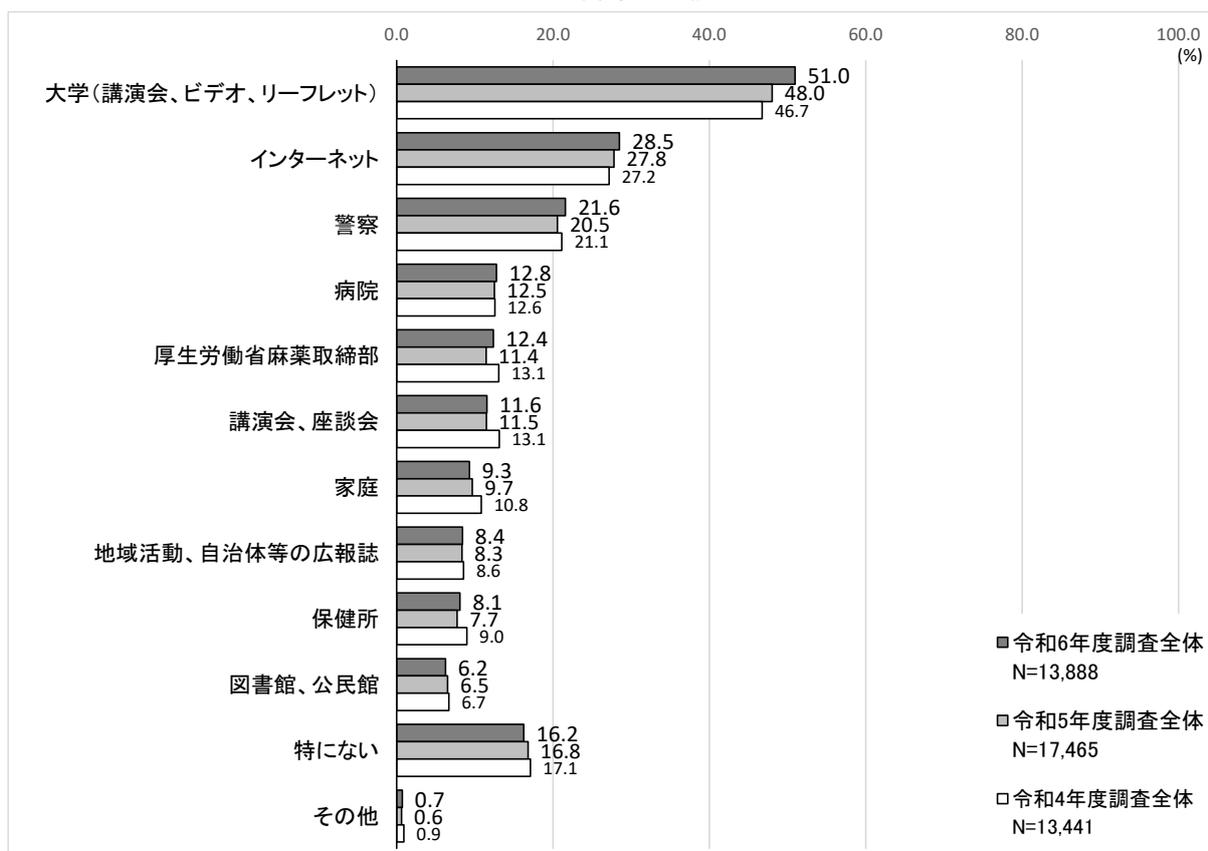
質問2で提示した薬物を使った場合の害について学ぶ場としては、「大学(講演会、ビデオ、リーフレット)」が51.0%と最も多く、「インターネット」が28.5%、「警察」が21.6%となっている。

過去2年の調査と比較すると、傾向に違いはないが、「大学(講演会、ビデオ、リーフレット)」の割合は増えている。

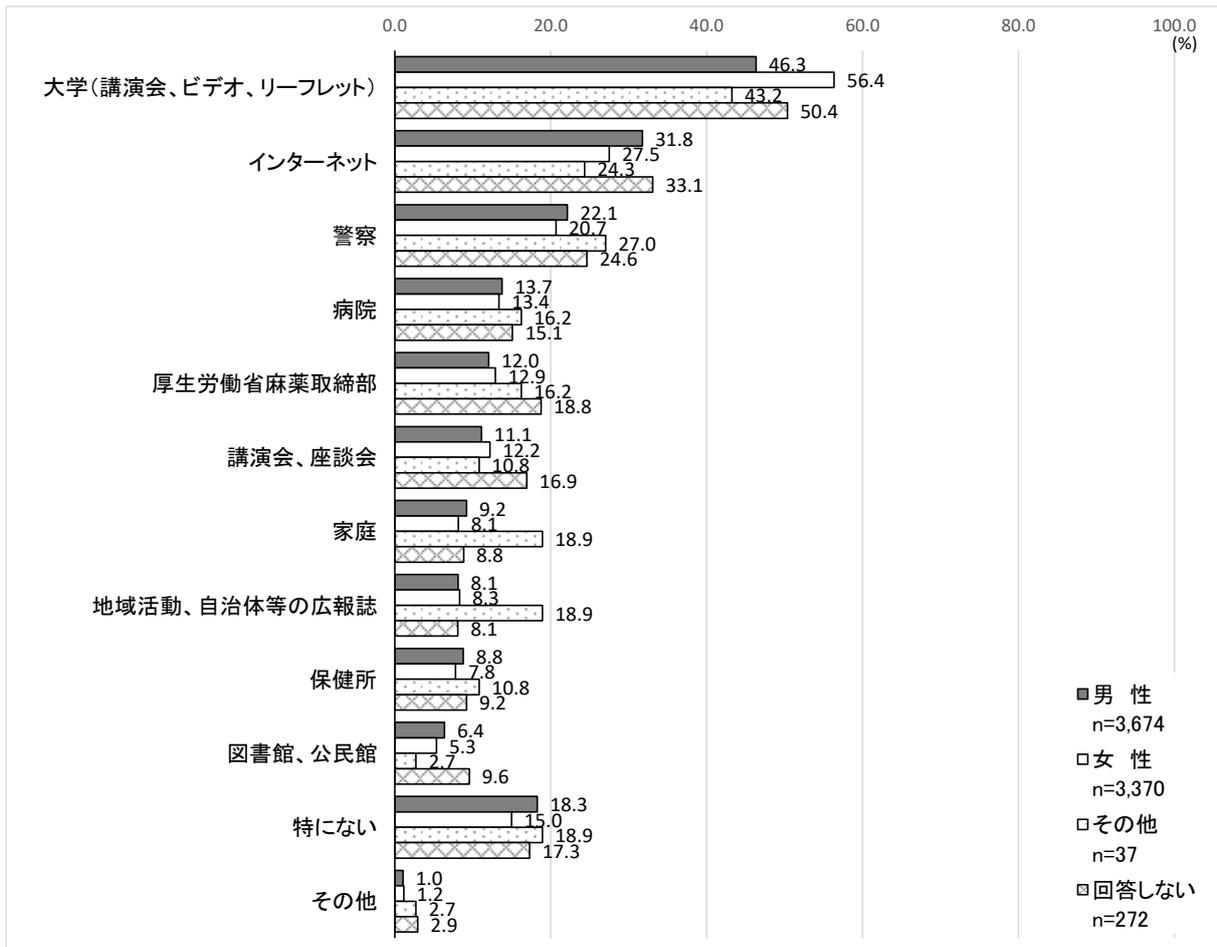
性別にみると、「女性」は「大学(講演会、ビデオ、リーフレット)」の割合が、他に比べて多い。

「その他」に記載されている内容をみると、大学入学までの小・中・高校などで学ぶのがよいとする記載が多い。「テレビ」、「SNSなど」の他、「薬物使用経験者の話」と具体的な事例や実体験を知ることの意味があるとする記載もある。

図表11 薬物の害を学ぶ場
 <<3か年調査比較>>



《性別比較》



(設問順)

	令和6年度調査 全体		大学コンソーシアム大阪調査(N=7,353)								令和5年度調査 全体		令和4年度調査 全体	
	n	%	男性		女性		その他		回答しない		n	%	n	%
回答者数	13,888		3,674		3,370		37		272		17,465		13,441	
大学(講演会、ビデオ、リーフレット)	7,078	51.0	1,702	46.3	1,899	56.4	16	43.2	137	50.4	8,391	48.0	6,282	46.7
家庭	1,295	9.3	338	9.2	274	8.1	7	18.9	24	8.8	1,688	9.7	1,457	10.8
地域活動、自治体等の広報誌	1,170	8.4	298	8.1	280	8.3	7	18.9	22	8.1	1,457	8.3	1,150	8.6
図書館、公民館	866	6.2	234	6.4	180	5.3	1	2.7	26	9.6	1,140	6.5	897	6.7
保健所	1,126	8.1	322	8.8	262	7.8	4	10.8	25	9.2	1,351	7.7	1,207	9.0
警察	2,998	21.6	813	22.1	697	20.7	10	27.0	67	24.6	3,589	20.5	2,839	21.1
厚生労働省麻薬取締部	1,718	12.4	442	12.0	434	12.9	6	16.2	51	18.8	1,998	11.4	1,756	13.1
病院	1,775	12.8	505	13.7	450	13.4	6	16.2	41	15.1	2,184	12.5	1,688	12.6
インターネット	3,959	28.5	1,167	31.8	927	27.5	9	24.3	90	33.1	4,853	27.8	3,653	27.2
講演会、座談会	1,605	11.6	408	11.1	411	12.2	4	10.8	46	16.9	2,004	11.5	1,764	13.1
特にない	2,256	16.2	671	18.3	504	15.0	7	18.9	47	17.3	2,934	16.8	2,301	17.1
その他	102	0.7	38	1.0	39	1.2	1	2.7	8	2.9	109	0.6	125	0.9
累計	25,948		6,938		6,357		78		584		31,698		25,119	

図表 12 「その他」の記載主旨

記載の主旨	件数	記載の主旨	件数
小・中・高校（いずれかを含む）	26	公共の場	1
テレビ・ニュース	9	学校薬剤師による啓発	1
薬物使用経験者の話	9	喫煙所	1
ネット（SNS、YouTube、動画）	7	留学	1
本	3	わからない	1
映画	1	記載なし	26

(11) 薬物使用者が増加している理由

問 10 あなたは、これらの薬物を使う人が増えているのはどのような理由からだと思
いますか。（複数選択可）

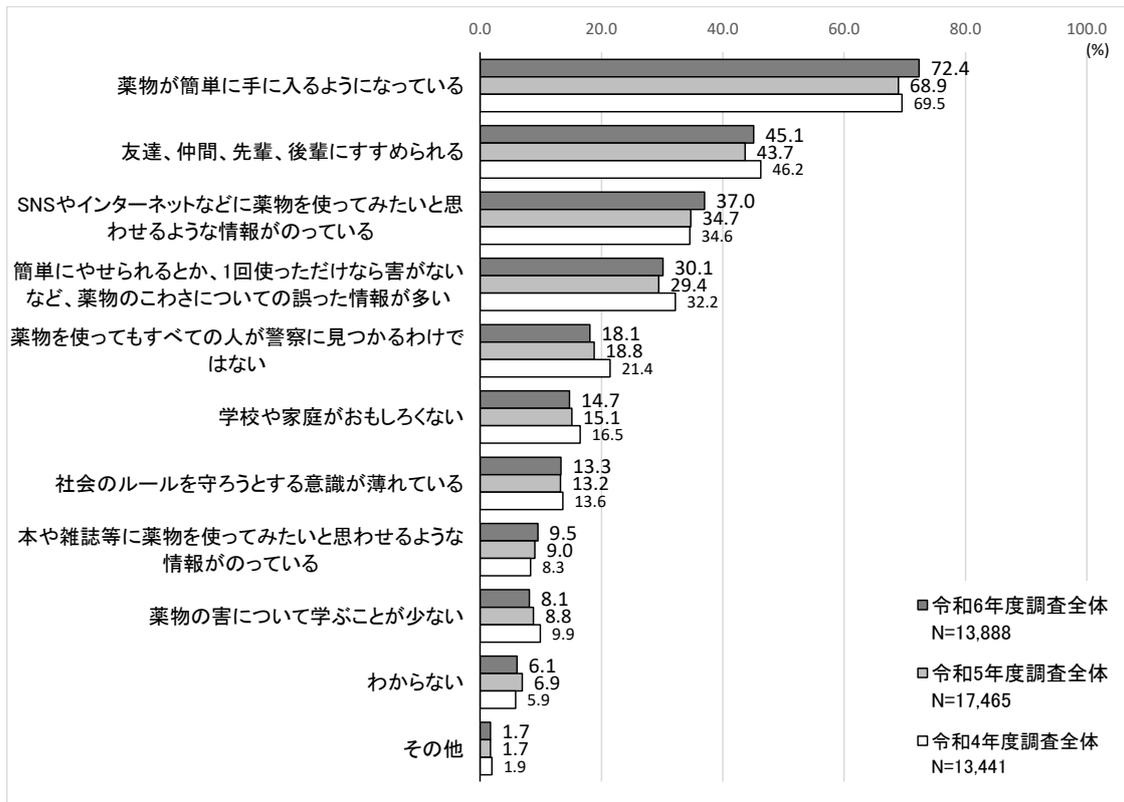
質問2で提示した薬物を使う人が増えている理由として、「薬物が簡単に手に入るようになっている」が72.4%と最も多く、「友達、仲間、先輩、後輩にすすめられる」が45.1%、「SNSやインターネットなどに薬物を使ってみたいと思わせるような情報がのっている」が37.0%、「簡単にやせられるとか、1回使っただけなら害がないなど、薬物のこわさについての誤った情報が多い」が30.1%となっている。

過去2年の調査と比較すると、傾向に違いはないが、「薬物が簡単に手に入るようになっている」の割合は増えている。「薬物を使ってもすべての人が警察に見つかるわけではない」（18.1%）、「学校や家庭がおもしろくない」（14.7%）の割合はやや減少している。

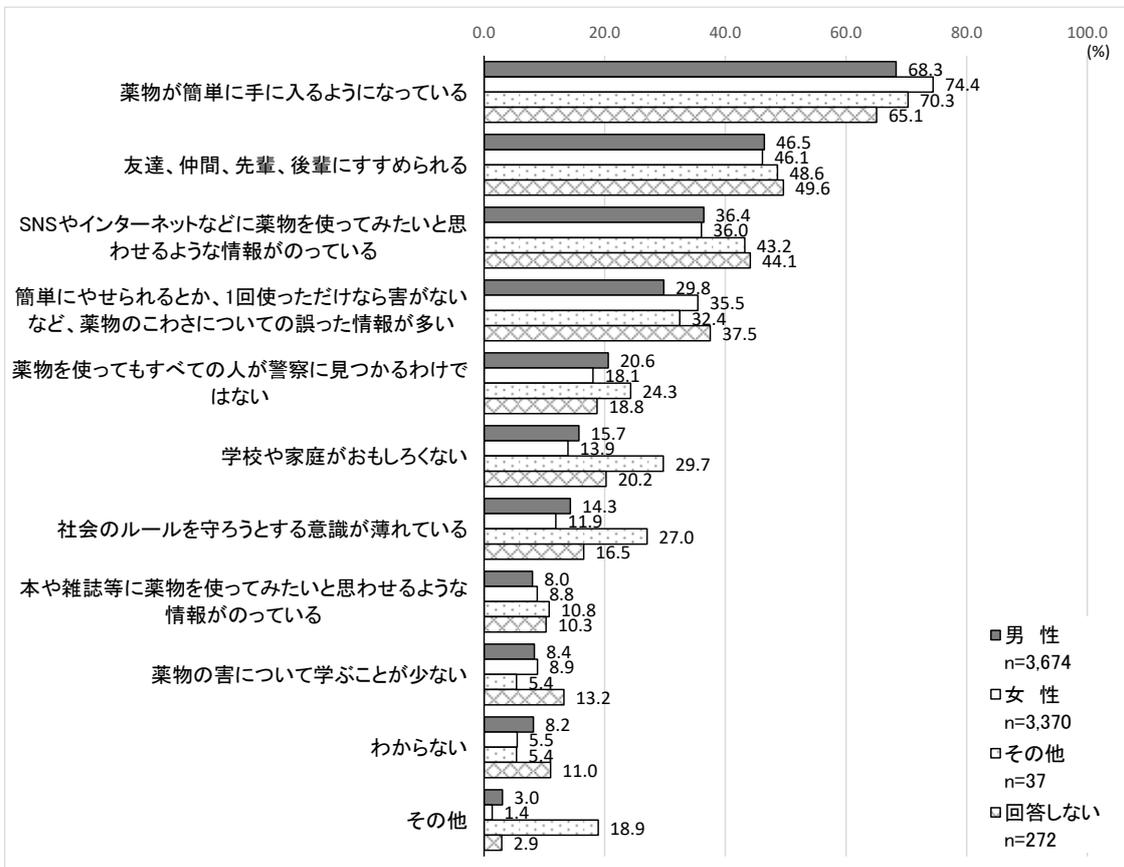
性別にみると、「薬物が簡単に手に入るようになっている」については、「女性」の割合が他に比べてやや多い。「SNSやインターネットなどに薬物を使ってみたいと思わせるような情報がのっている」については、「回答しない」の割合が他に比べてやや多い。

「その他」で記載されている内容をみると、「ストレス」、「現実逃避」、「生きづらさ」、「社会・環境の問題」など、社会の中で生きていく上での問題に着目している回答が多い。一方で、「バカだから」、「認識の甘さ」など使う人個人の判断を問題視する記述もみられる。

図表 13 薬物使用者が増加している理由
 ≪3 か年調査比較≫



≪性別比較≫



(設問順)

	令和6年度調査 全体		大学コンソーシアム大阪調査(N=7,353)								令和5年度調査 全体		令和4年度調査 全体	
			男性		女性		その他		回答しない					
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
回答者数	13,888		3,674		3,370		37		272		17,465		13,441	
薬物が簡単に手に入るようになっている	10,049	72.4	2,510	68.3	2,508	74.4	26	70.3	177	65.1	12,039	68.9	9,346	69.5
本や雑誌等に薬物を使ってみたいと思わせるような情報がのっている	1,321	9.5	295	8.0	298	8.8	4	10.8	28	10.3	1,577	9.0	1,116	8.3
SNSやインターネットなどに薬物を使ってみたいと思わせるような情報がのっている	5,135	37.0	1,338	36.4	1,214	36.0	16	43.2	120	44.1	6,065	34.7	4,644	34.6
社会のルールを守ろうとする意識が薄れている	1,852	13.3	526	14.3	401	11.9	10	27.0	45	16.5	2,314	13.2	1,834	13.6
薬物を使ってもすべての人が警察に見つかるわけではない	2,515	18.1	757	20.6	609	18.1	9	24.3	51	18.8	3,285	18.8	2,878	21.4
簡単にやせられるとか、1回使っただけなら害がないなど、薬物のこわさについての誤った情報が多い	4,185	30.1	1,095	29.8	1,195	35.5	12	32.4	102	37.5	5,142	29.4	4,324	32.2
薬物の害について学ぶことが少ない	1,127	8.1	307	8.4	299	8.9	2	5.4	36	13.2	1,536	8.8	1,335	9.9
友達、仲間、先輩、後輩にすすめられる	6,263	45.1	1,707	46.5	1,555	46.1	18	48.6	135	49.6	7,627	43.7	6,216	46.2
学校や家庭がおもしろくない	2,046	14.7	578	15.7	469	13.9	11	29.7	55	20.2	2,638	15.1	2,219	16.5
わからない	844	6.1	301	8.2	185	5.5	2	5.4	30	11.0	1,210	6.9	787	5.9
その他	239	1.7	112	3.0	46	1.4	7	18.9	8	2.9	299	1.7	261	1.9
累計	35,576		9,526		8,779		117		787		43,732		34,960	

図表 14 「その他」の記載主旨

記載の主旨	件数	記載の主旨	件数
ストレス	19	刑罰が軽い	3
現実逃避	19	取り締まりの不備	1
社会・環境・ストレス社会	13	厚生施設の不足	1
精神的な問題	12	金儲け	2
生きづらさ	7	簡単にアクセスできる	2
不安感	5	手口の巧妙化	1
孤独・絶望感	4	身近に迫っている	1
自暴自棄・鬱屈	4	犯罪組織の拡大	1
自信のなさ・幸福度の低下	3	カッコいいと勘違い	6
すぎる思い	2	バカだから	6
自殺者増加と同じ理由	1	認識の甘さ	5
心身の異常	1	憧れ	4
同調圧力	1	若気の至り	3
薬物と認識せず使用	8	好奇心	3
カリギュラ効果	4	無知	2
教育の問題	3	刺激を求めて	1
海外の影響	2	ネットによる生活脳の低下	1
断る能力の不足	1	日本が合法化していないから	1
		無記入	16

(12) 薬物使用についての考え

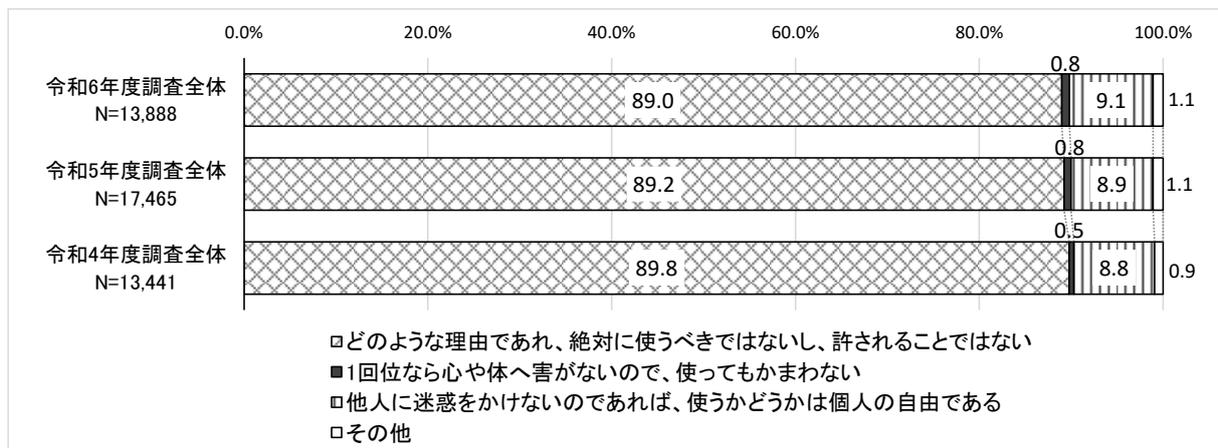
問 11 あなたは、これらの薬物を使うことについてどのように考えていますか。
(1つ選択)

質問2で提示した薬物を使うことについての回答者の考えについては、89.0%が「どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない」としている。なお、「他人に迷惑をかけないのであれば、使うかどうかは個人の自由である」が9.1%である。過去2年の調査と同様の結果となっている。

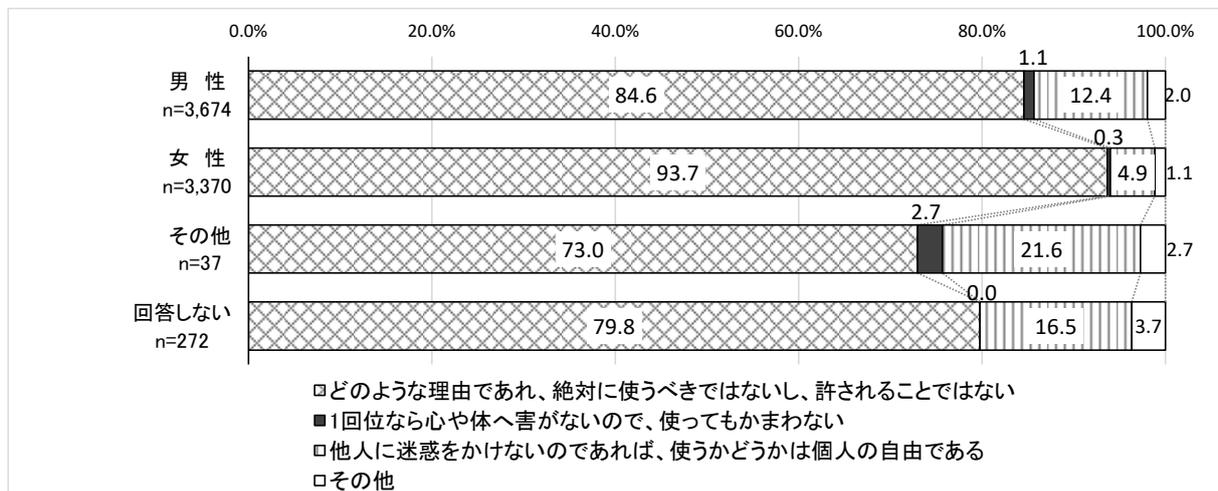
性別にみると、「どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない」の割合は、「女性」が他に比べて多く、「他人に迷惑をかけないのであれば、使うかどうかは個人の自由である」の割合は、「男性」、「回答しない」で1割を超えている。

「その他」に記載されている内容をみると、「医療的使用は容認される」や「医療的使用以外は許されるべきではない」など使うべきでないというの記載が多いが、「自己責任」、「事情による」や「救済・更生システムを整えるべき」との指摘もある。

図表 15 薬物使用についての考え
《3 年調査比較》



《性別比較》



	令和6年度調査 全体		大学コンソーシアム大阪調査(N=7,353)								令和5年度調査 全体		令和4年度調査 全体	
			男性		女性		その他		回答しない					
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
回答者数	13,888	100.0	3,674	100.0	3,370	100.0	37	100.0	272	100.0	17,465	100.0	13,441	100.0
どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない	12,356	89.0	3,108	84.6	3,157	93.7	27	73.0	217	79.8	15,582	89.2	12,067	89.8
1回位なら心や体へ害がないので、使ってもかまわない	116	0.8	40	1.1	11	0.3	1	2.7	0	0.0	131	0.8	67	0.5
他人に迷惑をかけないのであれば、使うかどうかは個人の自由である	1,263	9.1	454	12.4	164	4.9	8	21.6	45	16.5	1,560	8.9	1,181	8.8
その他	153	1.1	72	2.0	38	1.1	1	2.7	10	3.7	192	1.1	126	0.9

図表 16 「その他」の記載主旨

記載の主旨	件数	記載の主旨	件数
医療的使用は容認される	19	救済・更生システムを整えるべき	4
医療的使用以外は許されるべきではない	8	社会システムの問題として議論すべき	1
自己責任	8	事情による	4
海外での使用は自己責任	4	救われている人もいる	1
個人の自由・個人の問題	3	たばこと同じ	1
違法・法に従うべき・罰せられて当然	6	大麻以外は使用すべきでない	1
迷惑をかける	2	科学的根拠をもって不可とすべき	1
愚か・自分を台無しにする	5	具体的な情報提供が必要	1
無駄なこと	2	興味・関心がない	8
体に害があるので使うべきでない	3	わからない	2
止めらなくなるので使用すべきでない	1	どちらともいえない	1
簡単に手を出すのはよくない	1	恐ろしい	1
使わないようにしたい	1	おかしい	1
		記入なし	31

(13) 薬物使用の現場に居合わせたことの有無

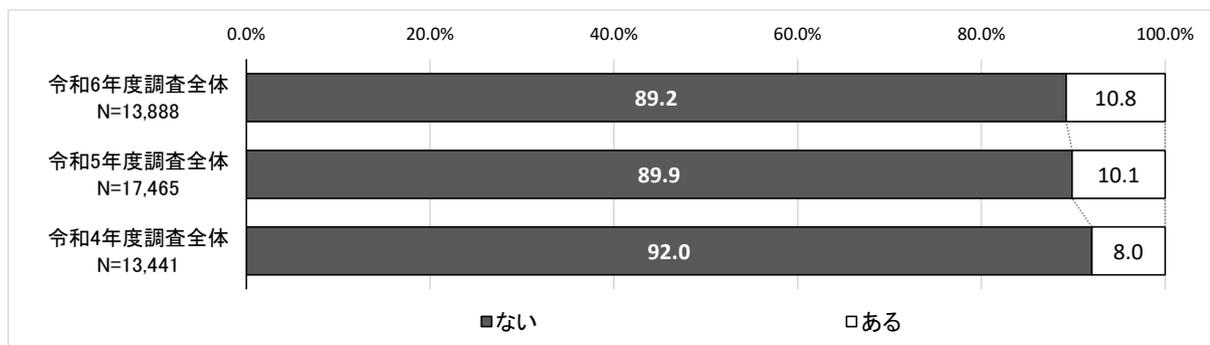
問 12 あなたは、これらの薬物が使用されているところを直接見たことがありますか。
 〈テレビ、映画、報道等で観たものは除きます〉(どちらかを選択)

質問2で提示した薬物が使用されているところを直接見たことがあるかについては、89.2%が「ない」としているが、10.8%が「ある」としており、10人に1人が薬物使用の現場を目撃あるいは居合わせたとしている。

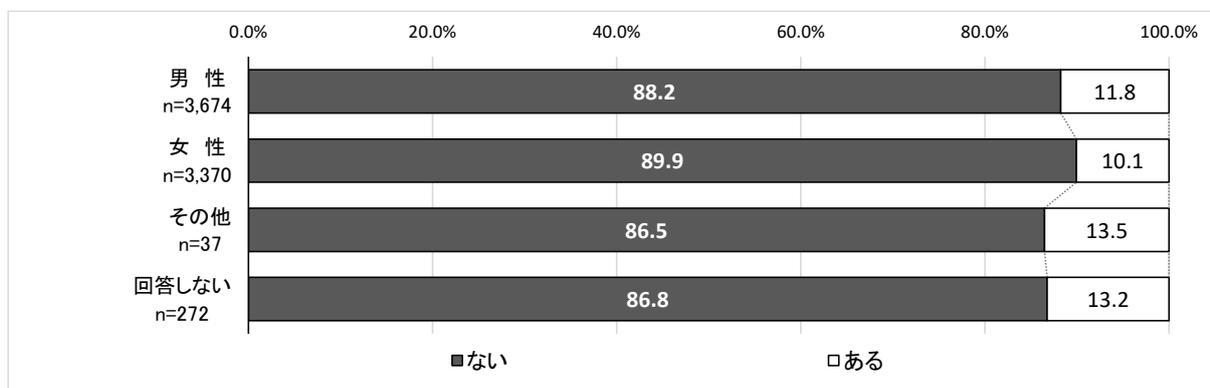
過去2年の調査と比較すると、「ある」の割合がわずかではあるが増えている。

性別にみると、「回答しない」が他に比べて、「ある」の割合がやや多い。

図表 17 薬物使用の現場に居合わせたことの有無
 ≪3か年調査比較≫



≪性別比較≫



	令和6年度調査全体		大学コンソーシアム大阪調査 (N=7,353)								令和5年度調査全体		令和4年度調査全体	
	n	%	男性		女性		その他		回答しない		n	%	n	%
回答者数	13,888	100.0	3,674	100.0	3,370	100.0	37	100.0	272	100.0	17,465	100.0	13,441	100.0
ない	12,393	89.2	3,242	88.2	3,031	89.9	32	86.5	236	86.8	15,696	89.9	12,368	92.0
ある	1,495	10.8	432	11.8	339	10.1	5	13.5	36	13.2	1,769	10.1	1,073	8.0

(14) 薬物使用等の勧誘経験の有無

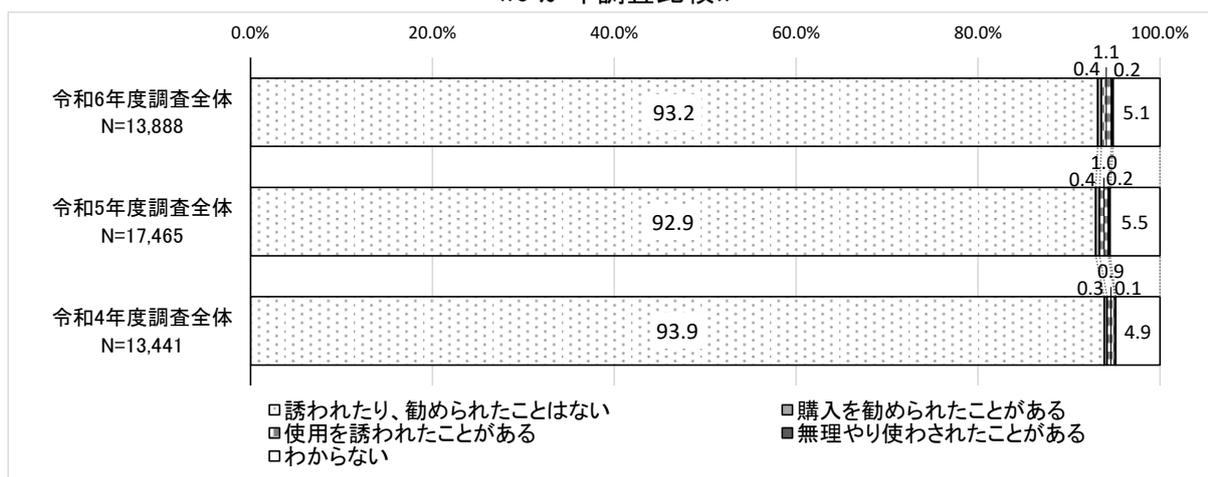
問 13 あなたは、これらの薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたりすることが、これまでにありましたか。(1つ選択)

質問2で提示した薬物の使用や購入を誘われたり、勧められたこと経験については、93.2%が「誘われたり、勧められたことはない」としているが、「ある」(「購入を勧められたことがある」、「使用を誘われたことがある」、「無理やり使わされたことがある」の合計)が1.7%となっており、100人に1人以上が薬物購入や使用の現場にいたことがある。

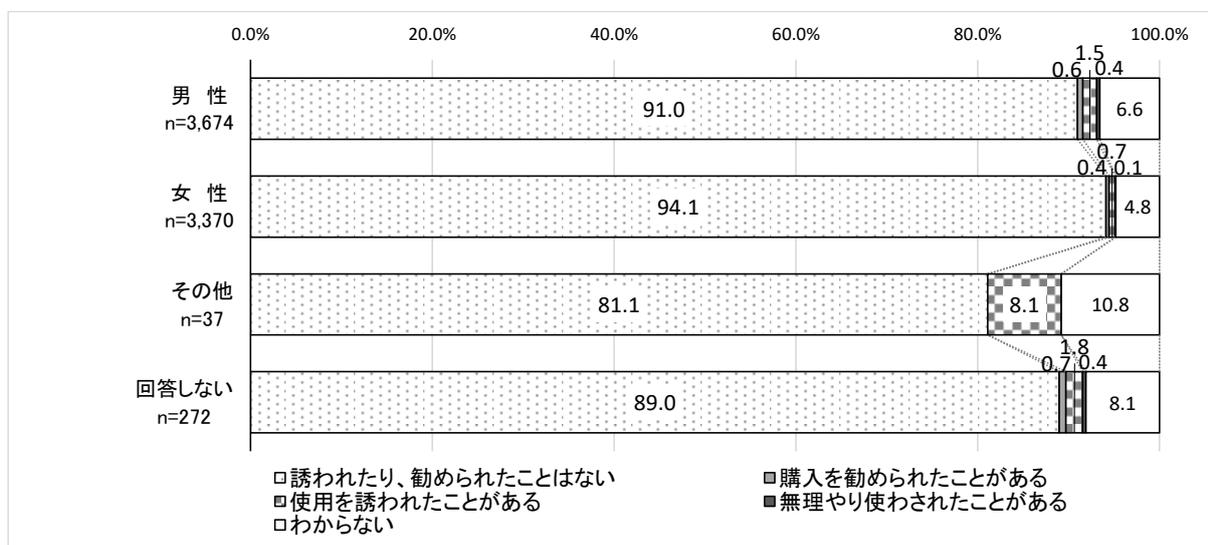
過去2年の調査と同様の結果となっている。

性別にみると、「誘われたり、勧められたことはない」の割合は「女性」が他に比べてやや多い。「わからない」、「(「購入を勧められたことが」、「使用を誘われたことが」、「無理やり使わされたことが) がある」は「男性」、「回答しない」は「女性」よりやや多い。

図表 18 薬物使用等の勧誘経験の有無
 <<3 か年調査比較>>



<<性別比較>>



	令和6年度調査 全体		大学コンソーシアム大阪調査(N=7,353)								令和5年度調査 全体		令和4年度調査 全体	
	n	%	男性		女性		その他		回答しない		n	%	n	%
			n	%	n	%	n	%	n	%				
回答者数	13,888	100.0	3,674	100.0	3,370	100.0	37	100.0	272	100.0	17,465	100.0	13,441	100.0
誘われたり、勧められたことはない	12,941	93.2	3,342	91.0	3,171	94.1	30	81.1	242	89.0	16,231	92.9	12,618	93.9
購入を勧められたことがある	55	0.4	22	0.6	12	0.4	0	0.0	2	0.7	75	0.4	41	0.3
使用を誘われたことがある	150	1.1	56	1.5	22	0.7	3	8.1	5	1.8	168	1.0	117	0.9
無理やり使わされたことがある	31	0.2	13	0.4	3	0.1	0	0.0	1	0.4	33	0.2	13	0.1
わからない	711	5.1	241	6.6	162	4.8	4	10.8	22	8.1	958	5.5	652	4.9

(15) 薬物使用を勧誘された時の行動

問 14 あなたは、これらの薬物を使用することを誰かに誘われたら、どのように行動しますか。(複数回答可)

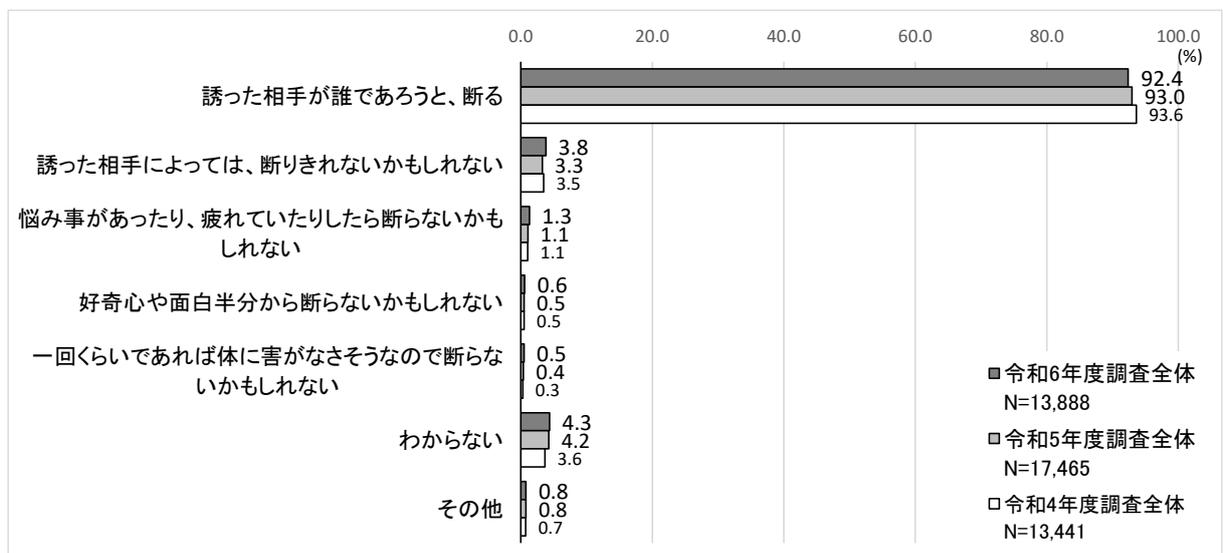
質問2で提示した薬物を使用することを誰かに誘われた場合、92.4%が「誘った相手が誰であろうと、断る」としている。

一方、「わからない」が4.3%、「誘った相手によっては、断りきれないかもしれない」が3.8%、「悩み事があったり、疲れていたりしたら断らないかもしれない」が1.3%となっており、過去2年の調査と同様に、状況によっては使用する可能性を示している回答がある。

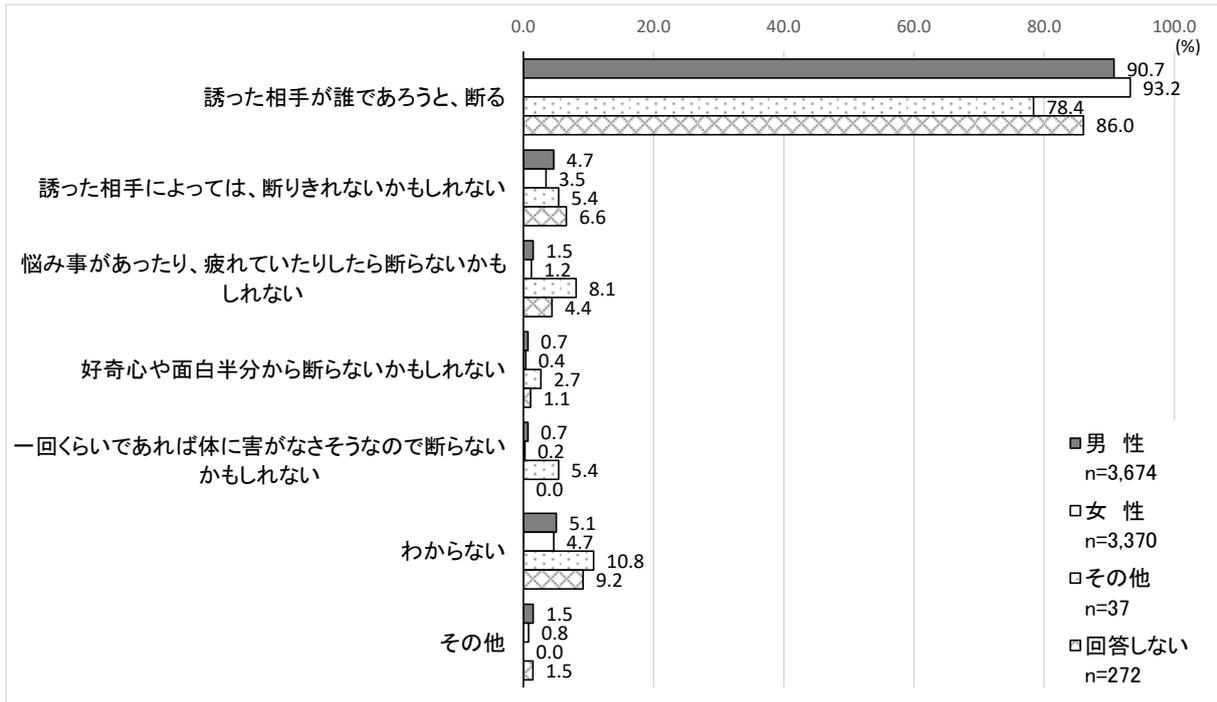
性別にみると、「誘った相手が誰であろうと、断る」の割合は、「女性」が他に比べてやや多く、「わからない」は「回答しない」がやや多い。

「その他」に記載されている内容を見ると、「警察等に通報する」や「警察等に相談する」、「絶縁する」との記載が多い。

図表 19 薬物使用を勧誘された時の行動
 <<3 か年調査比較>>



《性別比較》



(設問順)

	令和6年度調査 全体		大学コンソーシアム大阪調査 (N=7,353)								令和5年度調査 全体		令和4年度調査 全体	
	n	%	男性		女性		その他		回答しない		n	%	n	%
			n	%	n	%	n	%	n	%				
回答者数	13,888		3,674		3,370		37		272		17,465		13,441	
誘った相手が誰であろうと、断る	12,830	92.4	3,334	90.7	3,141	93.2	29	78.4	234	86.0	16,236	93.0	12,582	93.6
誘った相手によっては、断りきれないかもしれない	530	3.8	172	4.7	117	3.5	2	5.4	18	6.6	568	3.3	466	3.5
一回くらいであれば体に害がなさそうなので断らないかもしれない	66	0.5	26	0.7	8	0.2	2	5.4	0	0.0	67	0.4	39	0.3
好奇心や面白半分から断らないかもしれない	81	0.6	27	0.7	12	0.4	1	2.7	3	1.1	84	0.5	67	0.5
悩み事があったり、疲れていたりしたら断らないかもしれない	184	1.3	56	1.5	42	1.2	3	8.1	12	4.4	186	1.1	142	1.1
わからない	604	4.3	186	5.1	157	4.7	4	10.8	25	9.2	739	4.2	490	3.6
その他	108	0.8	56	1.5	27	0.8	0	0.0	4	1.5	133	0.8	98	0.7
累計	14,403		3,857		3,504		41		296		18,013		13,884	

図表 20 「その他」の記載主旨

記載の主旨	件数	記載の主旨	件数
警察に通報・連行する	23	殴る	1
通報する	11	なかったことにする	1
絶縁する	8	断らない	1
逃げる	8	気づかず使用する可能性もある	1
警察・学生課等に相談する	7	わからない	1
やめるよう勧告する	3	興味がない	1
断る	2	薬物かどうかを判断する	1
もらって捨てる	2	実験体に招待する	1
人にばらすと言う	2	記入なし	13

(16) 周囲での薬物所持・使用者の有無

問 15(ア) あなたの周囲に、これらの薬物を所持したり、使用している（いた）人がいますか。（1つ選択）

質問 15(ア)で「いる（いた）」を選択した人だけお答えください。

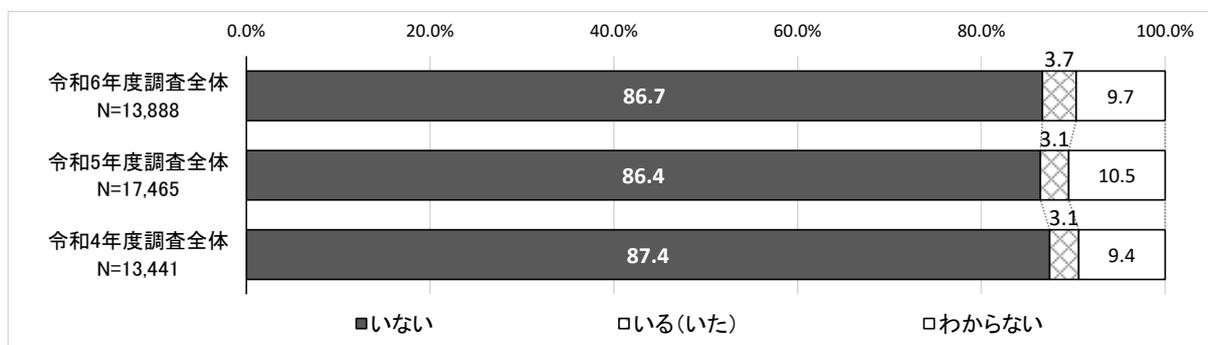
(イ) どの薬物でしたか。（複数回答可）

周囲に質問2で提示した薬物を所持したり、使用している（いた）人がいるかについては、86.7%が「いない」としているが、3.7%が「いる（いた）」としており、100人に3人以上が所持・使用者を知っている状況にある。過去2年の調査と同様の結果となっている。

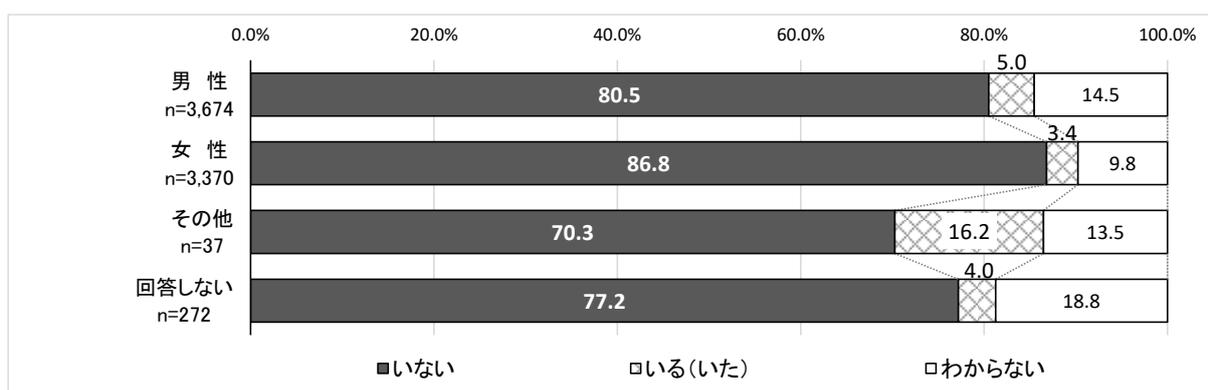
性別にみると、「いない」の割合は「女性」が他に比べてやや多い。

図表 21 周囲での薬物所持・使用者の有無

《3 か年調査比較》



《性別比較》



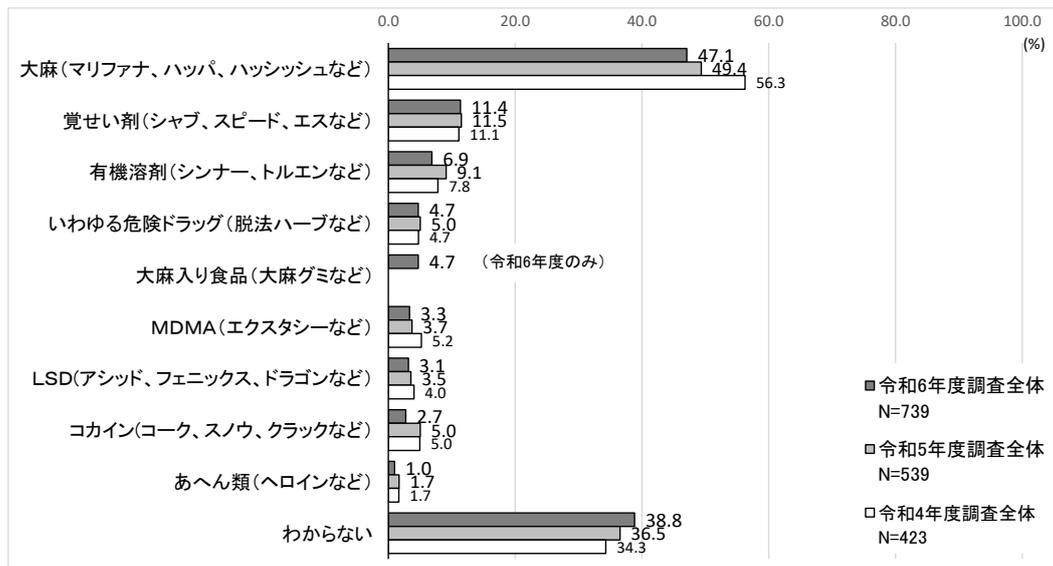
	令和6年度調査全体		大学コンソーシアム大阪調査 (N=7,353)								令和5年度調査全体		令和4年度調査全体	
	n	%	男性		女性		その他		回答しない		n	%	n	%
回答者数	13,888	100.0	3,674	100.0	3,370	100.0	37	100.0	272	100.0	17,465	100.0	13,441	100.0
いない	12,034	86.7	2,958	80.5	2,926	86.8	26	70.3	210	77.2	15,096	86.4	11,753	87.4
いる (いた)	510	3.7	182	5.0	115	3.4	6	16.2	11	4.0	539	3.1	423	3.1
わからない	1,344	9.7	534	14.5	329	9.8	5	13.5	51	18.8	1,830	10.5	1,265	9.4

周囲に所持・使用している人が「いる (いた)」とした人に所持・使用されていた薬物をたずねたところ、「大麻 (マリファナ、ハッパ、ハッシッシュなど)」が47.1%と最も多い。2番目に多いのは「覚せい剤 (シャブ、スピード、エスなど)」(11.4%)、3番目が「有機溶剤 (シンナー、トルエンなど)」(6.9%)である。なお、「わからない」が38.8%である。

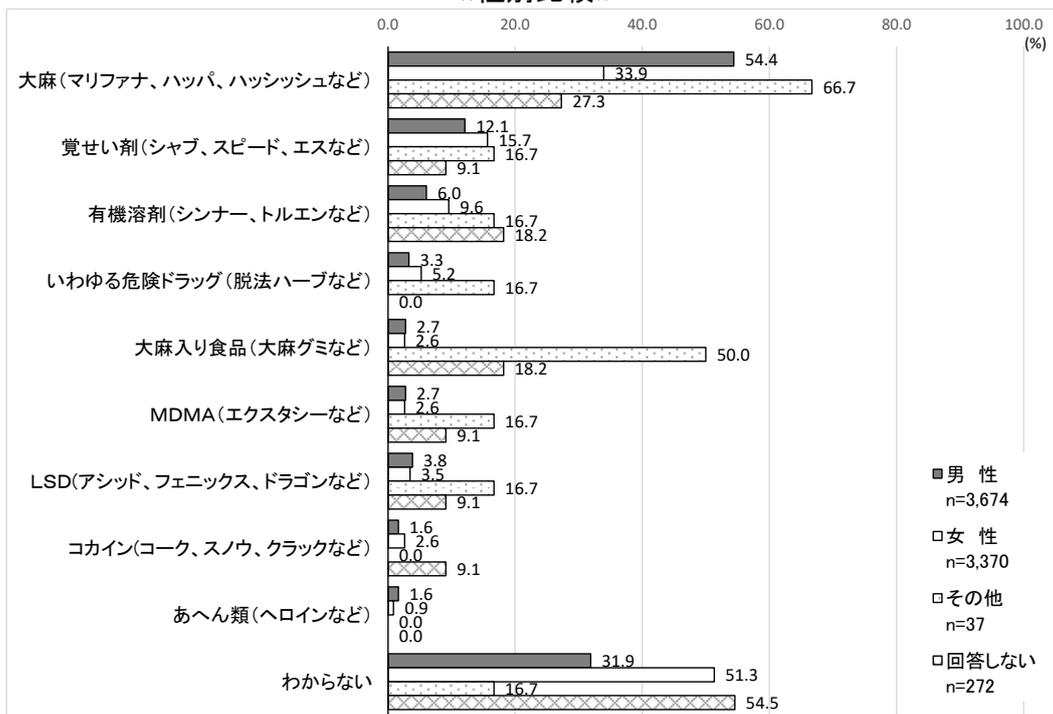
過去2年の調査と比較すると、「大麻 (マリファナ、ハッパ、ハッシッシュなど)」の割合が減っており、「わからない」が増えている。

性別にみると、「大麻 (マリファナ、ハッパ、ハッシッシュなど)」は「女性」の割合が、「わからない」は「男性」の割合が他より少ない。「その他」は、「男性」や「女性」より割合の多い選択肢が多い。

図表 22 使用していた薬物
 ≪3か年調査比較≫



≪性別比較≫



(設問順)

	令和6年度調査 全体		大学コンソーシアム大阪調査(N=7,353)								令和5年度調査 全体		令和4年度調査 全体	
			男性		女性		その他		回答しない					
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
回答者数	510		182		115		6		11		539		423	
有機溶剤（シンナー、トルエンなど）	35	6.9	11	6.0	11	9.6	1	16.7	2	18.2	49	9.1	33	7.8
覚せい剤（シャブ、スピード、エスなど）	58	11.4	22	12.1	18	15.7	1	16.7	1	9.1	62	11.5	47	11.1
大麻（マリファナ、ハッパ、ハッシュシュなど）	240	47.1	99	54.4	39	33.9	4	66.7	3	27.3	266	49.4	238	56.3
コカイン（コーク、スノウ、クラックなど）	14	2.7	3	1.6	3	2.6	0	0.0	1	9.1	27	5.0	21	5.0
あへん類（ヘロインなど）	5	1.0	3	1.6	1	0.9	0	0.0	0	0.0	9	1.7	7	1.7
LSD（アシッド、フェニックス、ドラゴンなど）	16	3.1	7	3.8	4	3.5	1	16.7	1	9.1	19	3.5	17	4.0
MDMA（エクスタシーなど）	17	3.3	5	2.7	3	2.6	1	16.7	1	9.1	20	3.7	22	5.2
いわゆる危険ドラッグ（脱法ハーブなど）	24	4.7	6	3.3	6	5.2	1	16.7	0	0.0	27	5.0	20	4.7
大麻入り食品（大麻グミなど）	24	4.7	5	2.7	3	2.6	3	50.0	2	18.2	-	-	-	-
わからない	198	38.8	58	31.9	59	51.3	1	16.7	6	54.5	197	36.5	145	34.3
累計	631		219		147		13		17		676		550	

(17) 友人の薬物使用を知った場合の対応

問 16 あなたは、もし友人がこれらの薬物を使用していることを知った場合、どうしますか。（1つ選択）

友人が質問2で提示した薬物を使用していることを知った場合どうするかについては、55.1%が「使用をやめるよう説得する」としている。「警察に通報する」が12.8%、「他の人（先生や友人など）に伝える」が10.9%、「医療機関や保健所等に連絡する」が2.2%と、どこかに相談・通報・連絡するとした割合が25.9%である。

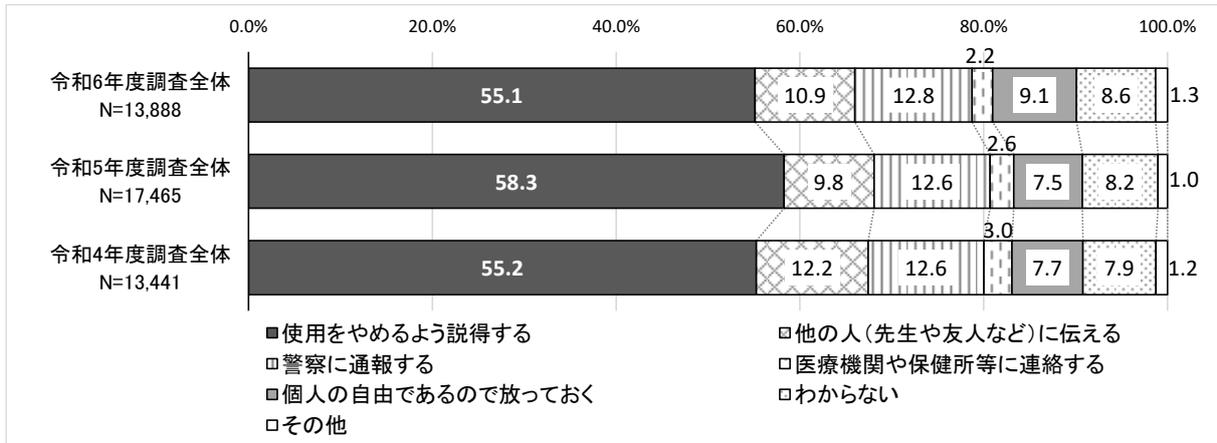
「個人の自由であるので放っておく」が9.1%、「わからない」が8.6%である。

過去2年の調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっているが、「使用しないよう説得する」は令和5年度調査よりやや減り、4年度調査と同程度となっている。

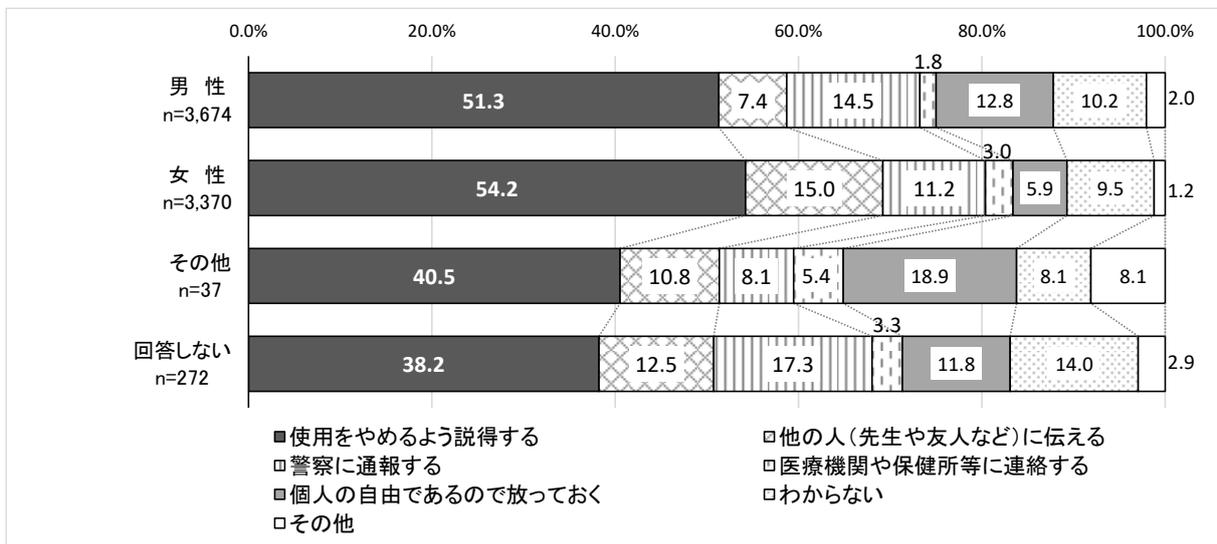
性別にみると、「女性」は「個人の自由であるので放っておく」の割合が他に比べて少なく、「他の人（先生や友人など）に伝える」が多い。「回答しない」は、「使用をやめるよう説得する」が10ポイント以上少なく、「警察に通報する」、「わからない」がやや多い。

「その他」として記載されている内容を見ると、3割強が「絶縁する」としている。「関わらない」、「距離を置く」、「放置する・見捨てる」を含めると、6割強が関係を持たないとしている。一方で「説得する」、「相談する」、「話を聴く」という記載もある。

図表 23 友人が薬物使用を知った場合の対応
 ≪3 か年調査比較≫



≪性別比較≫



	令和6年度調査全体		大学コンソーシアム大阪調査 (N=7,353)								令和5年度調査全体		令和4年度調査全体	
	n	%	男性		女性		その他		回答しない		n	%	n	%
回答者数	13,888	100.0	3,674	100.0	3,370	100.0	37	100.0	272	100.0	17,465	100.0	13,441	100.0
使用をやめるよう説得する	7,654	55.1	1,885	51.3	1,827	54.2	15	40.5	104	38.2	10,179	58.3	7,426	55.2
他の人(先生や友人など)に伝える	1,510	10.9	272	7.4	505	15.0	4	10.8	34	12.5	1,709	9.8	1,636	12.2
警察に通報する	1,772	12.8	534	14.5	377	11.2	3	8.1	47	17.3	2,207	12.6	1,695	12.6
医療機関や保健所等に連絡する	311	2.2	65	1.8	101	3.0	2	5.4	9	3.3	447	2.6	409	3.0
個人の自由であるので放っておく	1,267	9.1	469	12.8	199	5.9	7	18.9	32	11.8	1,308	7.5	1,039	7.7
わからない	1,198	8.6	374	10.2	320	9.5	3	8.1	38	14.0	1,435	8.2	1,068	7.9
その他	176	1.3	75	2.0	41	1.2	3	8.1	8	2.9	180	1.0	168	1.2

図表 24 その他の記載主旨

記載の主旨	件数	記載の主旨	件数
絶縁する	45	警察・施設等に連れて行く	2
関わらない	23	医師・弁護士に相談	2
距離を置く	11	警察・施設等に相談	1
放置する・見捨てる	4	信頼できる人に相談	1
話を聴く・する	7	相手による	3
一度は辞めるよう言う	5	絶句	1
数人で説得	1	一緒に使用する	1
他人を巻き込まないよう言う	3	記入なし	15

(18) 薬物に関する相談窓口の認知状況

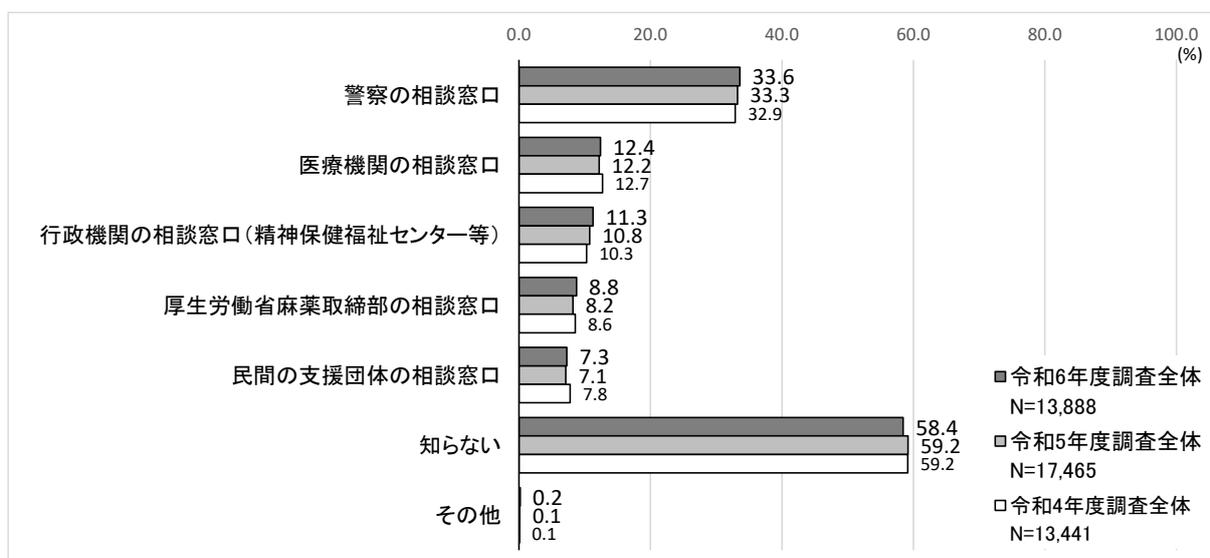
問 17 あなたは、これらの薬物に関する相談窓口があることを知っていますか。(複数選択可)

薬物に関する 5 つの相談窓口を提示してその認知状況をたずねたところ、58.4%が「知らない」としている。

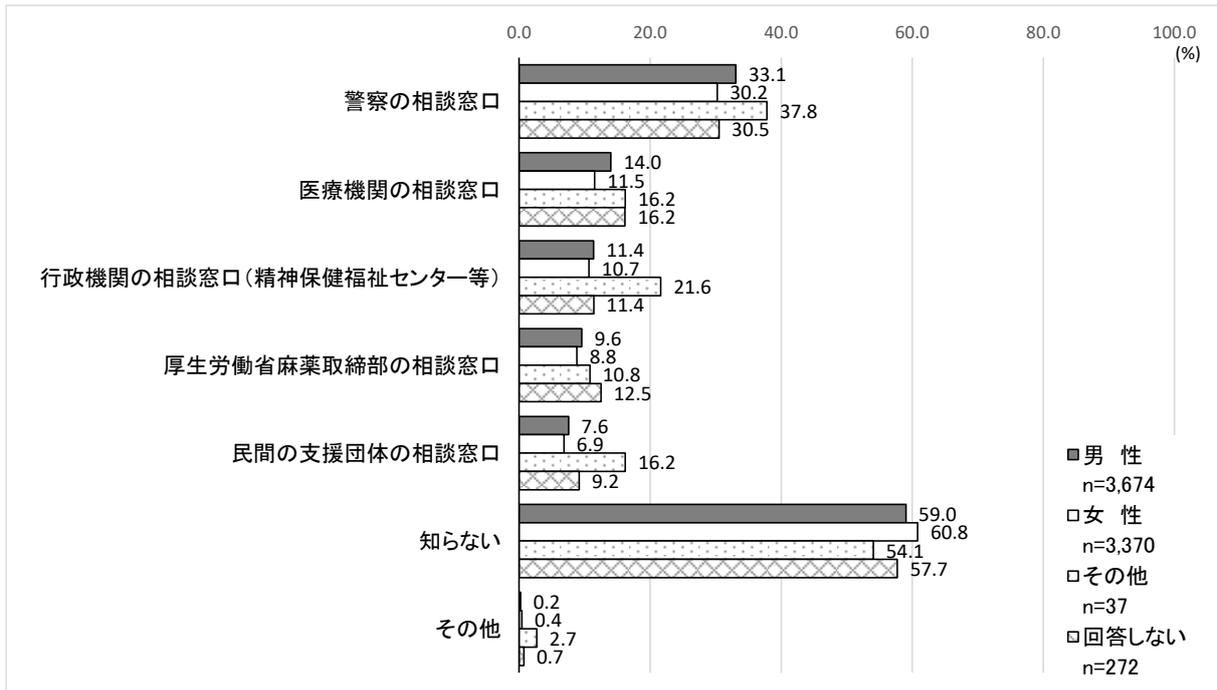
相談窓口の中では「警察の相談窓口」が 33.6%で最も認知されている。「医療機関」の認知度が 12.4%、「行政機関」が 11.3%、「厚生労働省麻薬取締部」が 8.8%、「民間の支援団体」が 7.3%である。過去 2 年の調査と同様の結果となっている。

性別による大きな差はみられない。

図表 25 薬物に関する相談窓口の認知状況
 <<3 か年調査比較>>



《性別比較》



(設問順)

	令和6年度調査		大学コンソーシアム大阪調査(N=7,353)								令和5年度調査		令和4年度調査	
	全体		男性		女性		その他		回答しない		全体		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
回答者数	13,888		3,674		3,370		37		272		17,465		13,441	
警察の相談窓口	4,667	33.6	1,215	33.1	1,019	30.2	14	37.8	83	30.5	5,810	33.3	4,424	32.9
行政機関の相談窓口(精神保健福祉センター等)	1,565	11.3	418	11.4	360	10.7	8	21.6	31	11.4	1,883	10.8	1,383	10.3
厚生労働省麻薬取締部の相談窓口	1,217	8.8	352	9.6	297	8.8	4	10.8	34	12.5	1,434	8.2	1,150	8.6
医療機関の相談窓口	1,725	12.4	515	14.0	388	11.5	6	16.2	44	16.2	2,134	12.2	1,707	12.7
民間の支援団体の相談窓口	1,014	7.3	278	7.6	231	6.9	6	16.2	25	9.2	1,247	7.1	1,047	7.8
知らない	8,116	58.4	2,169	59.0	2,050	60.8	20	54.1	157	57.7	10,337	59.2	7,952	59.2
その他	27	0.2	8	0.2	15	0.4	1	2.7	2	0.7	25	0.1	10	0.1
累計	18,331		4,955		4,360		59		376		22,870		17,673	

図表 26 「その他」の記載主旨

記載の主旨	件数
詳細は不明	2
大学	1
各地域の薬剤師会	1
聞いたことがある	1
機能していない	1
覚えていない	1
記載なし	19

(19) 薬物に手を出さないように注意するために知りたい情報

問 18 あなたや、あなたのまわりの人がこれらの薬物に手を出さないように注意するために知りたいと思う情報は何か。(複数選択可)

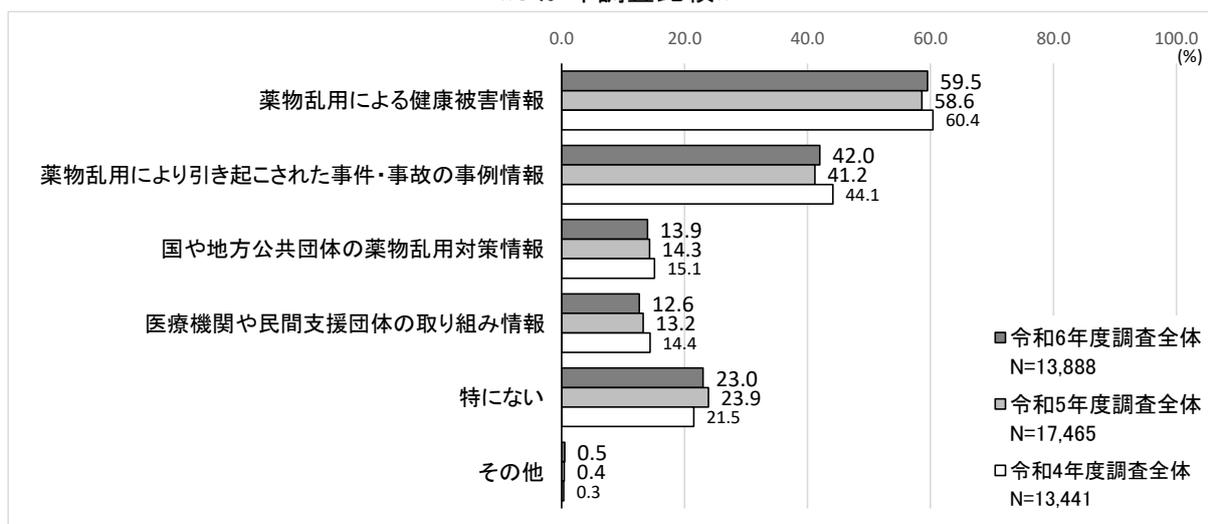
まわりの人が質問2で提示した薬物に手を出さないように注意するために知りたいと思う情報は、「薬物乱用による健康被害情報」が59.5%と最も多く、「薬物乱用により引き起こされた事件・事故の事例情報」が42.0%である。「国や地方公共団体の薬物乱用対策情報」は13.9%、「医療機関や民間支援団体の取り組み情報」は12.6%である。

過去2年の調査と同様の結果となっている。

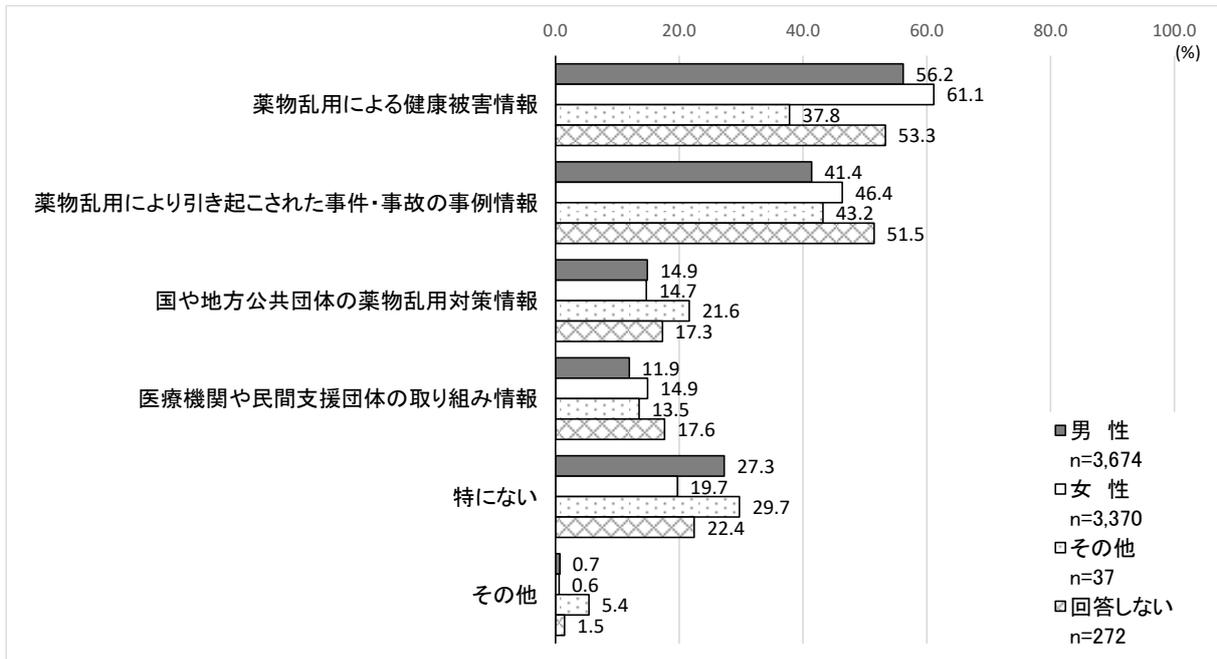
性別にみると、「女性」は「薬物乱用による健康被害情報」の割合が、「回答しない」は「薬物乱用により引き起こされた事件・事故の事例情報」の割合が、他に比べてやや多い。

「その他」で記載された内容をみると、「刑罰」や「使用の実態」「経験者の体験談」などが記載されている。「断り方」や「強制的に摂取された時の対処法」など具体的な対処法を知りたいという記載がある。

図表 27 薬物に手を出さないよう注意するために知りたい情報
 ≪3か年調査比較≫



≪性別比較≫



	令和6年度調査全体		大学コンソーシアム大阪調査 (N=7,353)								令和5年度調査全体		令和4年度調査全体	
	n	%	男性		女性		その他		回答しない		n	%	n	%
回答者数	13,888		3,674		3,370		37		272		17,465		13,441	
薬物乱用による健康被害情報	8,264	59.5	2,064	56.2	2,060	61.1	14	37.8	145	53.3	10,232	58.6	8,117	60.4
薬物乱用により引き起こされた事件・事故の事例情報	5,833	42.0	1,521	41.4	1,562	46.4	16	43.2	140	51.5	7,193	41.2	5,931	44.1
国や地方公共団体の薬物乱用対策情報	1,937	13.9	546	14.9	495	14.7	8	21.6	47	17.3	2,495	14.3	2,029	15.1
医療機関や民間支援団体の取り組み情報	1,752	12.6	438	11.9	502	14.9	5	13.5	48	17.6	2,314	13.2	1,930	14.4
特になし	3,194	23.0	1,002	27.3	664	19.7	11	29.7	61	22.4	4,172	23.9	2,886	21.5
その他	66	0.5	26	0.7	20	0.6	2	5.4	4	1.5	74	0.4	44	0.3
累計	21,046		5,597		5,303		56		445		26,480		20,937	

図表 28 「その他」の記載主旨

記載の主旨	件数	記載の主旨	件数
刑罰	5	科学的な情報	2
実態を伝える	4	強制的に摂取された時の対処法	1
経験者の体験談	3	断り方	1
売買の現状	1	著名人の逮捕	1
勧誘の仕方等の例	1	薬物のメリットとデメリット	1
経歴への影響	1	薬物の恐怖	1
賠償金額	1	幸せになる方法	1
被害金額	1	知りたくない	1
裁判例	1	その他	5
		記載なし	20

(20) 薬物入手の可能性と可能な理由

問 19(ア) あなたは、これらの薬物を入手可能と考えますか。(1つ選択)

質問 19(ア)で「難しいが手に入る」または「手に入る」を選択した人だけお答えください。

(イ) 入手可能と考えた理由は何ですか。(複数選択可)

質問 19(ア)で「それ以外」を選択した人だけお答えください。

(ウ) それ以外に入手可能と考えた理由は何ですか。

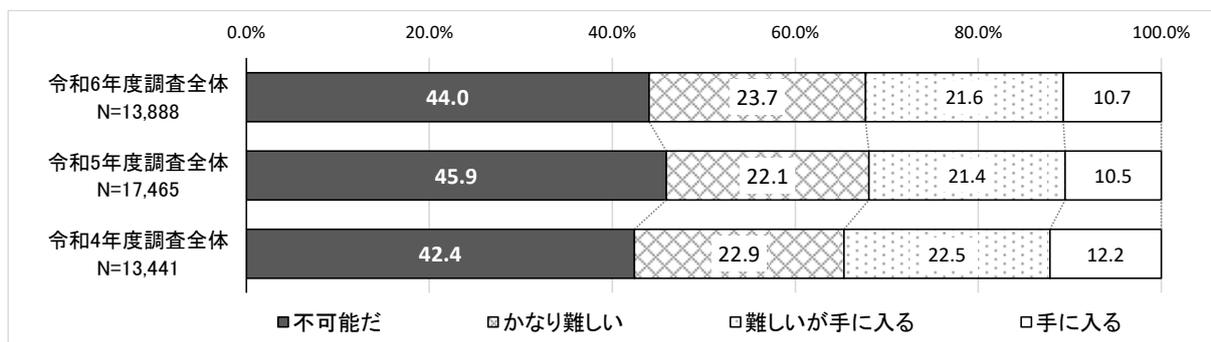
質問 2で提示した薬物の入手の可能性については、「不可能だ」が 44.0%で最も多く、「かなり難しい」が 23.7%で、67.7%が「難しい(「不可能だ」と「かなり難しい」の合計)」と考えている。一方で、「手に入る(「難しいが手に入る」(21.6%)と「手に入る」(10.7%)の合計)」と考えている人は 32.3%である。

過去 2 年の調査と比較すると、「手に入る」と考えている人の割合は令和 5 年度調査と同程度である。

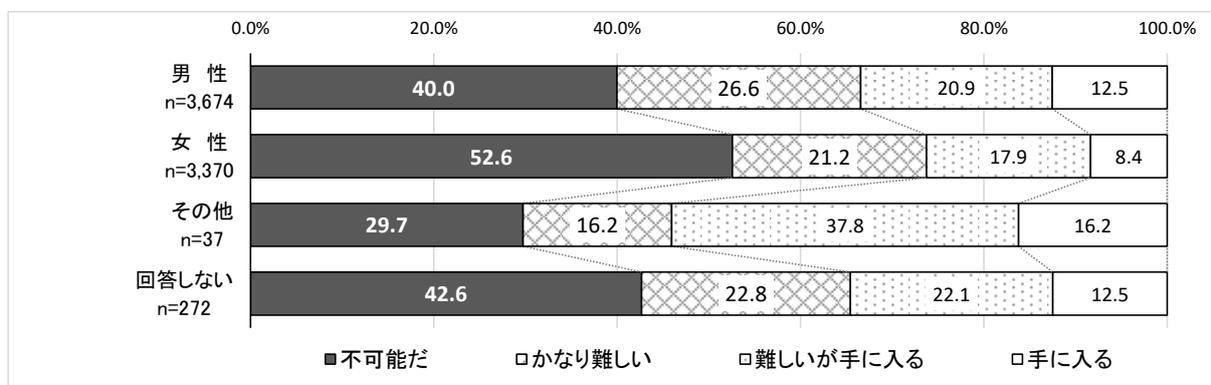
性別にみると、「不可能だ」とする割合は「女性」が他に比べて多い。

図表 29 薬物入手の可能性

《3 年調査比較》



《性別比較》



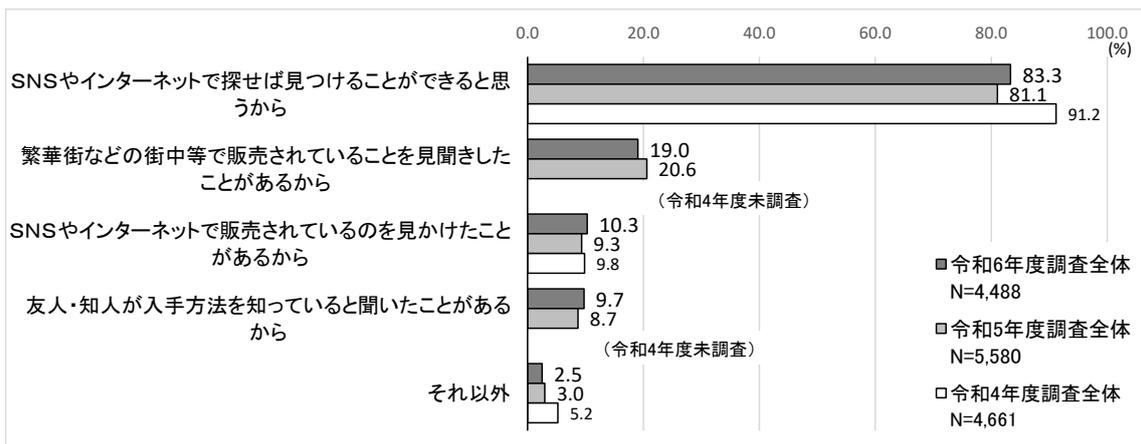
	令和6年度調査 全体		大学コンソーシアム大阪調査 (N=7,353)								令和5年度調査 全体		令和4年度調査 全体	
			男性		女性		その他		回答しない					
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
回答者数	13,888	100.0	3,674	100.0	3,370	100.0	37	100.0	272	100.0	17,465	100.0	13,441	100.0
不可能だ	6,112	44.0	1,468	40.0	1,771	52.6	11	29.7	116	42.6	8,018	45.9	5,700	42.4
かなり難しい	3,288	23.7	977	26.6	714	21.2	6	16.2	62	22.8	3,867	22.1	3,080	22.9
難しいが手に入る	3,000	21.6	768	20.9	603	17.9	14	37.8	60	22.1	3,745	21.4	3,027	22.5
手に入る	1,488	10.7	461	12.5	282	8.4	6	16.2	34	12.5	1,835	10.5	1,634	12.2

「手に入る（「難しいが手に入る」と「手に入る」の合計）」と考えている理由は、83.3%が「SNS やインターネットで探せば見つけることができるから」としている。「繁華街などの街中等で販売されていることを見聞きしたことがあるから」が19.0%となっている。

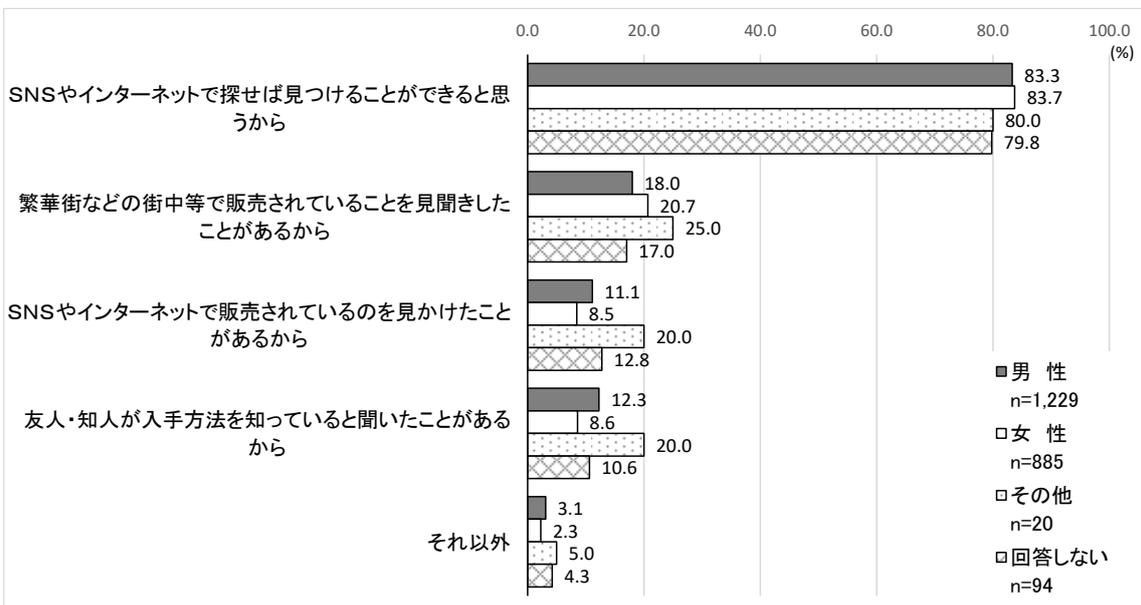
過去2年の調査と同様の結果となっている。

性別にみると、「女性」は「繁華街などの街中等で販売されていることを見聞きしたことがあるから」が他に比べてやや多く、「SNS やインターネットで販売されているのを見かけたことがあるから」、「友人・知人が入手方法を知っていると聞いたことがあるから」がやや少ない。

図表 30 薬物入手が可能性と考えた理由
 ≪3 か年調査比較≫



≪性別比較≫



	令和6年度調査 全体		大学コンソーシアム大阪調査(N=7,353)								令和5年度調査 全体		令和4年度調査 全体	
			男性		女性		その他		回答しない					
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
回答者数	4,488		1,229		885		20		94		5,580		4,661	
SNSやインターネットで探せば見つけることができると思うから	3,740	83.3	1,024	83.3	741	83.7	16	80.0	75	79.8	4,524	81.1	4,251	91.2
SNSやインターネットで販売されているのを見かけたことがあるから	462	10.3	137	11.1	75	8.5	4	20.0	12	12.8	519	9.3	458	9.8
友人・知人が入手方法を知っていると聞いたことがあるから	436	9.7	151	12.3	76	8.6	4	20.0	10	10.6	484	8.7	-	-
繁華街などの街中等で販売されていることを見聞きしたことがあるから	854	19.0	221	18.0	183	20.7	5	25.0	16	17.0	1,148	20.6	-	-
それ以外	113	2.5	38	3.1	20	2.3	1	5.0	4	4.3	166	3.0	244	5.2
累計	5,605		1,571		1,095		30		117		6,841		4,953	

「それ以外」として記載されている内容をみると、「テレビ等で事件の情報がある」、「使用している人がある」や身近なところで見聞きしていることが記載されている。

図表 31 選択肢以外に入手可能と考えた理由の記載主旨

記載の主旨	件数	記載の主旨	件数
テレビ等で事件の情報がある	12	ダークウェブサイト	2
授業等で習った	7	暴力団や使用者に接近したら可能	2
使用している人がある	6	売買している人がある	2
身近にあるものもある	4	ネットで調べるとできる	1
海外事例	3	密輸	1
海外で入手	3	知人から教えてもらった	1
可能だろうと思う	3	全てを取り締まることは不可能	1
聞いたことがある	3	種の入手ができれば可能	1
身近で事件があった	3	出回っている	1
犯罪件数が増えている	3	その他	2
		無記入	1

(21) 薬事法の一部改正による処罰の対象拡大の認知状況

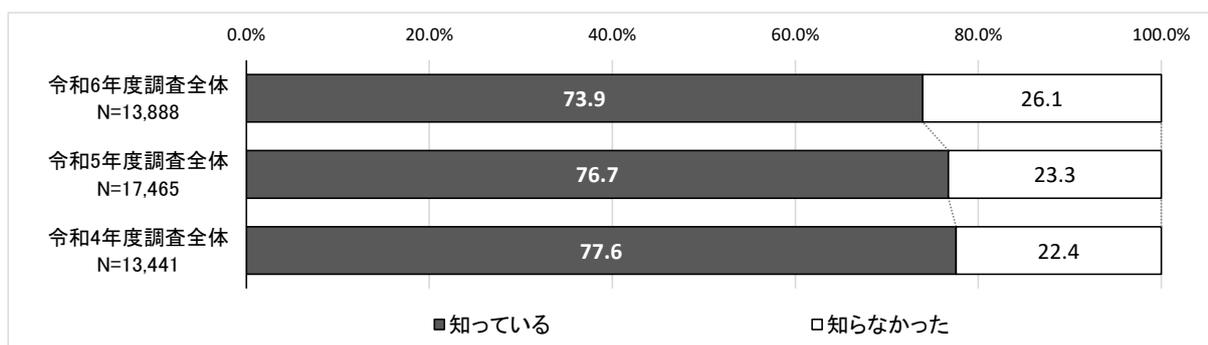
問 20 あなたは、薬事法の一部改正（平成 26 年 4 月 1 日施行）により、危険ドラッグと称される薬物や商品（脱法ハーブ、合法アロマリキッドなど）の多くが、使ったり、持っていたりすると罰則の対象となる薬物になっていることを知っていますか。（どちらかを選択）

薬事法の一部改正により、平成 26 年 4 月 1 日から危険ドラッグと称される薬物や商品（脱法ハーブ、合法アロマリキッドなど）の多くが、使ったり、持っていたりすると罰則の対象となることの認知状況については、73.9%が「知っている」としているが、26.1%は「知らなかった」としている。

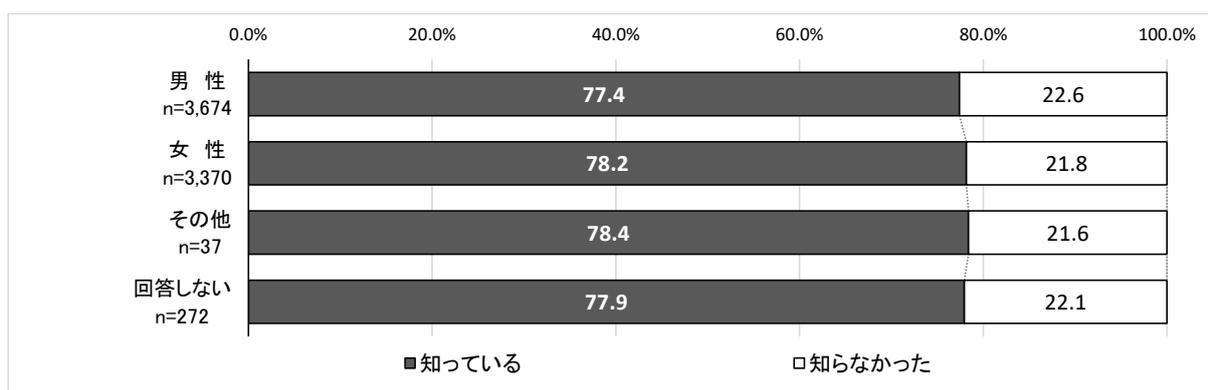
過去 2 年の調査と比較すると、「知っている」の割合が微減している。

性別による差はみられない。

図表 32 処罰の対象拡大の認知状況
 ≪3 か年調査比較≫



≪性別比較≫



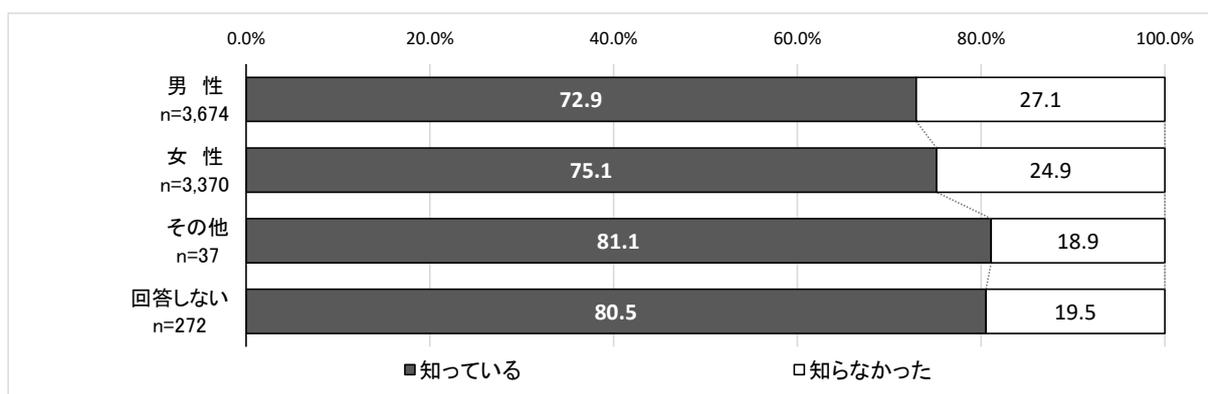
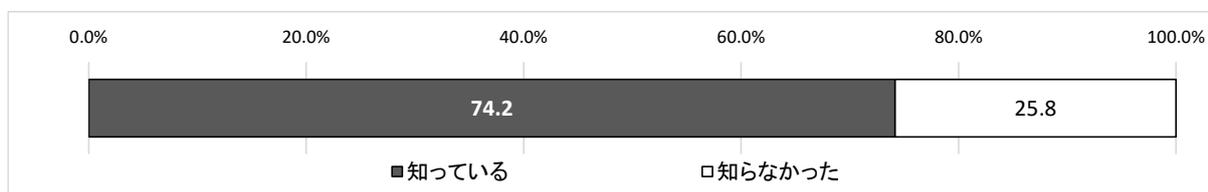
	令和6年度調査全体		大学コンソーシアム大阪調査 (N=7,353)								令和5年度調査全体		令和4年度調査全体	
	n	%	男性		女性		その他		回答しない		n	%	n	%
回答者数	13,888	100.0	3,674	100.0	3,370	100.0	37	100.0	272	100.0	17,465	100.0	13,441	100.0
知っている	10,265	73.9	2,844	77.4	2,634	78.2	29	78.4	212	77.9	13,402	76.7	10,425	77.6
知らなかった	3,623	26.1	830	22.6	736	21.8	8	21.6	60	22.1	4,063	23.3	3,016	22.4

(22) 市販薬の過剰摂取も薬物乱用の一種であることの認知状況

問 21 あなたは、「市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）」が社会問題になっていることを知っていますか。（1つ選択）

「市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）」とは、市販薬（かぜ薬・解熱剤・鎮痛剤・睡眠薬など）を定められた用法・用量以上に服用する（過剰摂取する）ことで、薬物への依存が高まるだけでなく、内蔵機能障害や最悪の場合は心肺停止で死亡するケースもある、薬物乱用の一種です。

「市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）」が社会問題になっていることの認知状況については、74.2%が「知っている」としているが、25.8%は「知らなかった」としている。性別にみると、「回答しない」は、「知っている」の割合が、他の性別より多い。



	令和6年度調査全体		大学コンソーシアム大阪調査 (N=7,353)							
			男性		女性		その他		回答しない	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
回答者数	13,888	100.0	3,674	100.0	3,370	100.0	37	100.0	272	100.0
知っている	10,301	74.2	2,679	72.9	2,532	75.1	30	81.1	219	80.5
知らなかった	3,587	25.8	995	27.1	838	24.9	7	18.9	53	19.5

大学名	今年度の薬物意識調査に関する意見等	今後、学生の薬物乱用防止に向けて、ブラットフォームとしての取組で期待されること	本調査の実施において、工夫している点や課題と想われる点 (大学のみ)	その他、本調査に関する意見等
9 大阪国際大学	<p>・周間で薬物を所持したり、使用している(いる)人がいるかについて、3.7%が「いる(いた)」としており、この新生生の年齢層を踏まえると、馬鹿にできない数値である。また、薬物の入手可能性に対する回答を踏まえ、薬物が身近に迫りつつあるという風に感じた。</p> <p>・薬物に関する相影響口について、58.4%の者が知らないという回答しているため、新生生を対象に入学早期の段階で啓発活動を行うことがよいと感じた。</p> <p>・併せて、危険ドラッグ、オーソートーンスに関する啓発活動もすること、認知状況の改善に努めていかなければならないと感じた。</p> <p>・大学全体で共有した方がよい課題だと思っているので、引き続きブラットフォームで協力体制を築いていただきたい。</p>	<p>今回の集計・分析をもとに、薬物に関する危機意識の醸成、連絡先の周知活動等に活かすことで、学生の薬物乱用防止に努めていければよいのではないかと考える。</p>	<p>次年度以降、アンケート回収率の向上に寄与できるように尽力する。</p>	
10 大阪女学院大学	<p>問8について、「知りたいたいとは思わない理由」どちらでもない」を記述してもらったのはどうでしょうか。もう十分知識があるのかを知りたいと思わないのか、それとも他に理由があるのかわからず、次の行動がしやすーいと思います。</p> <p>問18のそのほか記述で、「強制的に摂取された時の対処法」とあるのが気になる。海外では、他人にすすめられた飲み物へのドラッグ混入などの事例もあつとききます。方が一攫取してしまつたら、逮捕されるのか？応急処置で水を飲むのが良いのか。などについて知識を提供してもいいのではないのでしょうか。</p>	<p>問12で、約1割の回答者が現場に居合わせている、というデータはインパクトがあると思います。この結果を、A4用紙1枚程度に集約して、改めて乱用防止を呼び掛けると良いのでは無いでしょうか。</p>	<p>事後のことになりますが、毎年1年生対象に、警察官を招いて薬物を含む犯罪防止講座を授業内で行ってまいります。</p>	<p>継続的に調査し、対応することはとても重要だと思います。引き続きよろしくお願ひいたします。</p>
11 大阪電気通信大学	<p>(10)薬物の書を学ぶ場場の回答結果にもあるように、回答者の半数以上が大学がよいと答えているので、校内での講演会や学生が多く集まるライブダンス・イベント等でリーフレットを配布することにより、薬物の害について意識を高められると感じた。</p>	<p>本学は回答者が少ないため、他大学ではどのようなように回答してもらっているのか、事例共有をお願いできませんでしょうか。</p>	<p>回答者が少ないことが課題である。</p>	
12 関西大学	<p>本調査において、大学ごとの回答者数に大きな偏りがあるのではないかと考えている。無回答の大学が複数見られるため、ブラットフォームとして実施する意識調査のあり方として適切かどうか、検討願ひたい。</p> <p>また、今年度(昨今の社会情勢を受けて、問2の選択肢に新たに「大購入り食品(びん・缶・ペットボトル)が買われ、6割以上の高い認知度があることがわかつた。また、問211市販薬の過剰摂取(オーバードーズ)」についても7割以上の高い認知度があり、多様化する若年層への薬物被害の拡大を防ぐため、同分野に対する啓発をより一層進めていく必要性を感じている。</p>	<p>本調査結果を踏まえて、ブラットフォーム全体で同課題に対する啓発取組の実施などを期待したい。</p>	<p>本学の本調査における回答率は例年の割以上であるが、回答率を上げるため、毎年度、新生生全員が集う学部別オリエンテーションの中で回答依頼を行い、可能な限り、その場での回答を促している。</p>	
13 近畿大学	<p>薬物乱用に関心のある学生が増え、犯罪に巻き込まれる、止められなくなる等の認識があるにも関わらず薬物乱用のニュースが出ています。</p>	<p>新生生への防止に向けての周知</p>		
14 四天王寺大学	<p>薬物乱用問題に関心があると回答した大学生の割合は、3年間統計の平均で30%前後と低い数字である。一方で、薬物名の認知度や、薬物使用をすることで処罰されることへの認識は90%以上と非常に高いことがわかつた。中学や高校での授業によって薬物に対する知識を身につけている割合も85%以上ではあるが、大学生になると関心が30%と薄れてくる。アルバイト先での感覚やSNSからの情報で興味を得る機会も多くなることから、改めて薬物に対する周知や対策をより強化する必要がある。</p>			

大学名	今年度の薬物意識調査に関する意見等	今後、学生の薬物乱用防止に向けて、プラットフォームとしての取組で期待されること	本調査の実施において、工夫している点や課題と思われる点 (大学のみ)	その他、本調査に関する意見等
15 摂南大学	本調査については、学生の準備が現れているものと考えています。これを参考にしてより詳細な実態の把握につなげたいと思います。 問3:複数回答番号を選択可となっていることから、1人の回答につき回答番号1～5(薬物についてホスピティブな印象を持っている)の回答が含まれている率(美人数の割合)が知りたいたいです。 問9:薬物に関する学びの場として、大学への期待が高いので、伝えていきたいと存じます。 問12:10人に1人が強か薬物を直接使用しているところを見たことがあることは由々しき事態と考えます。 問16:設備に応じてやめても、犯罪行為には違いは無いので、隠匿ならぬらめより警察に通報するか正解と考えます。一方で、設備に応じて自首を進めるのも正しい行為と考えます。警察の信頼により回答が傾いた印象です。 問17:通報は「知らないでしよう。かしなながら、学生の身分であれば、まずは大学の学生相談窓口を思い浮かべてもらえれば幸いです。 問18:漠然とした問いかけのため、ほぼ、回答番号順に回答が集中した印象です。本当に知りたい情報は「その他」に集中しているようです。 問19:問1001で「薬物が簡単に手に入るようになる」になっているの選択肢がありますか、「簡単に手に入る」は意図的に除いているのでしょうか？入手法難易度の意識調査であれば、選択肢として存在しても良いかと存じます。	薬物使用・依存の怖さなどをわかりやすく伝える動画があれば、薬物使用に配意したいと思えます。 薬物使用に至った案件の主な原因(興味本位、生活環境、精神状態等)の事例を収集し、これらをもとに、未然に防ぐ学生指導の具体的な手法をプラットフォーム内で議論し実施していきたいと存じます。	回答率を向上させるために、新入生ガイダンスにて実施しました。	薬物の恐ろしさや伝えていると同時に、刑事罰の詳細も伝えていたいただきたいです。 他府県の大学コンソーシアムに類する調査結果等が収集可能であれば、参考にして課題解決に取り組みたく存じます。
16 相愛大学	薬物への印象として、プラスの印象を持っている者が少なからずいる(問3)ことから、日々の生活の中での意識づけを徹底させるべく、警察等の協力のもとで実施する講演会等を引き続き開催し、留学生を含めた学生全体に対して正しい知識の習得を期待していくこととしたい。	新入生に対して薬物乱用防止の啓発を促進する取組みとして、今後も続けて調査をしていければよいと思う。	本学においては、多く回答できていない年と、そうでない年がある一方で、学内での周知を徹底するとともに、毎年多くの回答がなされるよう回答方法を見直したいと思う。	
17 帝塚山学院大学	回答数やその内容から、「知っている人は知っている」という印象を受けました。 正直に答えてくれたりしているのか、「かっこいい」などのポジティブな回答が少数ながらあることに、薬物の危険性を伝えることの困難さを感じています。また、関心を持っていない層に対してどうやって情報を届けられるのか、よい事例があればご紹介いただきたーと思います。	啓発のための動画コンテンツ等資料の紹介や、講演、講習のための情報をご提供いただければありがたいと思えます。 とくに、警察等関係機関の職員、または会員大学様の研究者の方をご紹介いただき、ご登壇いただける機会が持つことができれば、学生の関心を引くことができると考えています。		
18 阪南大学	犯罪性や常習性等の問題を認識しながらも、個人の自由、1回くらいならという意見が一定数あることから、啓発活動や学習機会を設けても最終的には個人の意識改革に委ねるしかないところに、薬物問題根絶の困難さを感じる。			
19 桃山学院大学	例年と大きく変動があった項目はない印象であった。逆に言うこと、過去同様、回答者の中でも薬物に関して使用したことのあるものなども改善されていない状況であることが分かった。この結果を本学の薬物防止に活用していきたい。		本結果を学生支援課などへ共有し、薬物乱用防止の活動やクラブ、サークルへの警告などの根拠資料として活用しています。	調査結果が大学にとって必要なデータだと認識しています。引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。
20 森ノ宮医療大学	メディアによる報道の影響で大学生の薬物への認知が上がってきているが、行動できていないかという疑問が残る。 啓発活動も重要であるが大学として取り締まる方法やフォローを検討することも併行して考えていく必要がある。	学生の学内における薬物啓蒙団体などができるとより身近に感じられるので検討しています。	本調査において学生にはポータルサイトに周知をしているが、回答がなかったため本学の学生に対する薬物の啓発活動と併せて実施するなどを検討していきたい。	

※大学名五十音順に記載

(2) 今後の方向性について

調査の方向性	若者の薬物に対する意識や動向の変化を把握するほか、調査の実施そのものが啓発活動となるため、今後も継続して調査を実施する。 一方、本調査開始以降、大学の回答状況にばらつきが見られる傾向は、今後、各大学で実施しやすい方策などを検討しながら、次年度以降の回答数増を目指す。 調査実施時に学生に対し、乱用防止に関する情報を適宜提供するなど、より効果的な啓発活動を行う。
情報の共有方法	大阪府薬務課や大阪府警本部等との継続的な情報共有を行う。 大阪府教育庁等を通じて、大阪府内の高校等にも情報共有を行う。(自県進学率の高い大阪において高大有共通認識をもつことは重要である。)